

平和国家建設国土計画大綱

財団法人 田中研究所

目次

一、 連合国軍総司令官 マッカーサー元帥閣下	4 ～ 12頁
一、 平和国家建設国土計画大綱	13 ～ 21頁
一、 国土計画、田中プランを評せられた 米国著名人スチブソン氏の祝辞	22 ～ 26頁
一、 日本工業クラブ木曜講演会	27 ～ 49頁
一、 国土計画に関するNHK放送の録音	50 ～ 54頁
一、 全国区参議院議員立候補の際、NHKより全国放送	55 ～ 57頁
一、 他界された顧問、役員芳名	58頁
一、 財団法人田中研究所の現役員芳名	59頁

(注) 横書きの記録は前編(左開き)の目次を御参照下さい

発刊の辞

昭和二十年八月十五日、大東亜戦争の結果、わが国肇国以来初めての敗戦となつて終結した悲惨に直面した私は、今後、日本国民は如何にして生きるべきか？…と沈思黙考数日を過ごしました。

当時、政府も産業界も、また国民も齊しく暗澹として狼狽中に、私は「新日本建設」の方策を熟考して企画を得た頃、戦後の内閣総理大臣、東久邇宮殿下より至急上京を待つとの御招電に接し、二十八日に首相官邸へ参伺しまして日本再建の私案をお答えしたのであります。

本書は当時の私の企画と、連合国軍総司令部において「田中プラン」と銘打たれた「平和国家建設・国土計画大綱」の原文、及び主なる記録の内、原文の纏っているものを後世のために集録したものであります。

昭和四十三年十一月三日

田中清一

新しい国造りの歌

勲二等 田中清一作

荒野に救の道を開き、砂漠に大道を通して、
盤根に大室を建て直し、天与の水はたくわえて、
光と熱と力と潤の源となし、もろもろの小さき
山と岡とは坦いらかに、嶮しきは大平なる道と
なせ。

子孫よ、水を治め田を作り畑耕し木を植え、
人類の平安なる生活に役立つ、なりわいを果し、
時に祖の墓に詣でて、平らけく安らけく暮すは
賢きことなり。



「勲二等瑞宝章」を佩用する国土計画・企画者の田中清一氏

連合軍総司令官

マツカーサー元帥閣下

昭和二十二年四月四日

田 中 清 一

静岡県沼津市の株式会社富士製作所会長、田中清一でございます。

私は今後の日本を最も早く確実に、平和で文化の高い国家に樹てなおすためにこの書面を差し出します。

人口と食糧

日本で一番大切なことは、人口と食糧の問題であります。道義の頹廢も、思想の混乱も交通機関の混雑するのも、仕事の能率が上がらぬのも、物価が高くて苦しむのも、社会不安の根本は皆、食糧の不足から起って来るものと思えます。

如何にしても、この人口と食糧の問題を早急に解決しなければ、我が民族の将来に対する方針が定まらないと思えます。凡ゆる学問も芸術も、お腹が空いては始まらないのであります。

ソクラテスは食える教育をしないのは教育に非らず、と言ったが、私は政治とは食べべきことなりと信ずるのであります。

殊に第二次大戦の末期より終戦以来、日本の有様を考えましたとき、如実にそれを物語

っているのであります。

抑々、日本は肇国の昔より大和と号し農を以って国の本とせよと教えられて来たことは、好戦民族にならざるようにと、即ち戦を好む民族にならざるようにと戒められた深遠な哲理であると思います。何となれば、人類は申すに及ばず、総ての動物は食糧があつてこそ、生存が続けられるのでありますから、生命保全のためには先ず食物であります。

この食物を各国各民族が奪い合うことは、必ず争を起す元であるから、食糧に限り自給自足して平和な生活を営ませることが、政治の妙諦であります。

人類文化の最高目標は「和む」ということであります。仁義も道徳も共存共栄と言うことも、一切の極致は「和」であると信じます。故に聖徳太子は十七条憲法の初めに「和」を以って貴しと為すと教え給うたのであります。然るに日本は何が故に悲惨なる戦争を一再ならず繰返したかというに、皆人口と食糧の問題からであります。この人口と食糧の問題を誤った指導者が、誤った方針に依って解決しようとした結果、肇国の大本を誤ったのであります。

従来、平坦にして豊穰肥沃の農耕地が軍の種々の設備となり、更に軍需工場の拡張により、不健全なる都市人口の大膨脹となつて、元来甚だしく平坦地の少ない日本は、益々農耕地が狭められ、今日の如く食糧危機を醸成する一大原因をなすに至つたのであります。狭隘なる我国土に於ける平坦肥沃の農耕地は、私共の祖先が長い年月に亘つて撓まぬ努力と汗と油の一滴一滴を流して、神仏の慈悲にも等しい努力に依つて切り開かれた沃野なの

であります。此の沃野を無碍に戦争目的、準備のために潰したり、似て非なる生産のために、例えば人類の平安なる生活には何の役にも立たず、寧ろ我が民族を不幸にする有害なる施設のために、無関心に潰してしまうことは、祖先の御恩を忘却し、人類共存共栄の見地から人道に悖る悪行為であつたことに自ら帰結したのであります。従つて今次敗戦を契機としてよろしく平和日本再建の大経綸を樹立し、再びかかる失敗を繰返さざるよう、百八十度の大転換をなし、一切を挙げてこの禍を転じて福となさねばなりません。それがためにはこの現実に則して、そのまま永遠の平和国家となる必須条件である食糧自給自足の大国土改良を実行することこそ、転禍為福であると信ずるのであります。

食糧の自給自足国家となることに依つて、平和民族となる、その理由は日本は何が故に軍国主義的国家になつたかと申しますに、人口と食糧の問題を解決せんがために外ならぬのであります。限られた狭隘の我が国土に於いて、人口の急激なる増加になやみ、止むに止まれず海外への進出策となり、領土拡張を意図するに立ち至つたのであります。従つて海外への進出には強力なる外交を必要とし、強力なる外交を行わんとするには、強力なる軍隊を必要とするに至つたのであります。それが事実として、私共は少年の時から人口と食糧の問題によつて、民族の将来に対する不安、国内経済の貧困ということが、頭の中に焼き鑊の如く明け暮れ、こびりついていてのために、台湾を取つた万歳、満州国に進出したやれ万歳、と国民の多数がこれを歓迎することになつたのであります。

そこに誤まれる一部指導者の乗ずるところとなつて、軍部の独裁に等しき軍国主義国家となり、国民がそれに引きづられて来たのは、以上の理由に基づくものなのであります。

今こそ敗戦という現実を通じて真の平和日本国を建設する絶好の機会であり、千載一遇の時であると考えるのであります。

食糧の海外依存は一年間二千億円という莫大なる輸入資金を得るがために勢い、輸出優先或は飢餓輸出の名に依るソシアルダンピングを誘発する惧れがあるのであります。何となれば食糧は生命に係わるに反し、日本よりの輸出品は概ね贅沢品か不急品で生命にはかわらないからであります。

同時に莫大なる食糧輸入は資金の面で国民生活の向上と、重要生産増進のために必要な鉄鉱石とか綿花及石油のような原料及び材料の輸入を不可能ならしめるのであります。殊に我が国に於ける石炭の埋蔵量の少なきこと、且つ近年急速なる森林資源の枯渇等、将来の燃料や動力問題を考えるとき、今直ちに治水治山のためにも、一大造林計画の実行と同時に、特に多目的ダムを建設して、水力発電計画に着手せざる時は、近き将来、鉱工業の衰退を招くばかりでなく、輸出工業に於いても長続きの見込みが立たず、従って国民生活の低下は免れないのであります。更に現在世界に於いて、食糧輸出の能力を有する国は僅かに三、四ヶ国に過ぎず、残余の国々は、殆んど全部が食糧輸入国であります。故に、世界的飢饉又は、測らざる事態の発生をも考うるべき、食糧に限り輸入に依存することは、日本民族の生存上危険この上もなきこと、考えるのであります。

ここに於いて結論として、食糧のみは自給自足して如何なる時に於いても国民の心を常に平正に保たしめ、衣食足りて礼節を知る諺の如く、移民に於ても輸出品に於いても、諸

外国より歓迎せられる程の優秀なるもののみを送り出すことが、永遠の平和を齎す所以なりと確信するものであります。

さて狭隘なる我が国土に於いて食糧の自給自足を計るには、到底普通の常識を以つては考え及ばざる、国土改良を實行する必要があるのであります。これには先ず

皇居御造営を基として、国土計画を立てることに依つて、今後日本の歩むべき道が自ら開けて来るものと信ずるのであります。

皇居の御造営地は、北緯三十五度五分、東経百三十八度六分の地が最も相応しいと考えられています。この地域は日本の最中であり日高見にして、まことに清々しい所であります。周囲には日本アルプスの名ある秀峯聳え立ち、尊厳極らない清浄地なのであります。かかる清浄の地に

皇居を定め、この大構想を根本としたる国土計画により、全国的に道路網を完備して、日本国土の八〇パーセントにも及ぶあの綺麗な山や高原地帯及び丘陵地帯を住宅地域となし、現在の都市として復旧しつつある大中の都市と、肥沃平坦の地を農耕地となさねばなりません。

故に第一期として着手すべき新らしき道路は、神戸より大阪を経て近江平野を通り、濃尾平野の中心を通り、岐阜県中津川より長野県飯田を経て諏訪湖に至り、旧中仙道を小諸より軽井沢に出で、高崎、足利、宇都宮を経て、那須野を通り仙台、盛岡、弘前を経て、青森に至る日本の背骨とも称すべき、一線に二十四米突幅四車線の高原地帯を通る背骨道

路を建設して、日本海及び太平洋岸の重要都市、重要港湾、重要穀倉地帯よりは、肋骨形に現在ある一級国道及び二級国道並びに府県道を拡幅、整備、完全舗装して、前記の背骨道路と連絡せしめ運輸交通の便を計り、更に背骨道路の長野県飯田より、天竜峽を経て赤石山脈中の聖嶽の南、海拔九五〇米突のところにトンネルをうがって、大井川に出て青蘆山を貫いて、富士川の支流早川に出て、身延の北、下部温泉を通って、本栖湖畔に出て精進湖、西湖、河口湖を経て、富士吉田を通り、大月、八王子を経て東京に至る直線の二十四米突幅、四車線の中央道を建設して、東京と神戸間四五〇キロ、自動車にて約四時間半の中央道を開設することが、本計画を一層有意義ならしむる最も重要な条件であります。

而してこれ等の道路に添う河川は、ことごとく米国テネシー河及びコロラド河流域開発方式に則り、多目的ダムを建設して約三百七十万キロの水力電気を開発し、超精密工業、軽工業、各種の研究試験場、諸官公庁及び上級学校、其の他の生産を伴わざる施設を、この道路に副う現在未開発の土地又は農耕不適の土地に建設して、現在の不健全なる過大都市は疎開し、かくして雄大な大自然に触るる高原健康文化地帯となせば、住民は心身共に浄化し自ら繁栄すること、信ずるのであります。

尚この道路開設に伴って、眠れる奥地森林資源の利用、保存管理に便ならしむる外、各種の地下資源及び観光資源をも開発し、更に日本特有の丘陵地帯及草原地帯を利用して広大な牧場を各所に設けて、国民の栄養を増進し同時に治水治山の問題と農山村に於ける次、三男対策は、以上の施設充実に依って根本的に解決出来るのであります。而して国内の南に面する平坦肥沃にして一年間二毛作を収穫し得る所は、出来得る限り農耕地となさ

ねばなりません。

御承知の如く現在の都市となりつゝ、ある大河川の川口デルタ地帯、又は海岸の沖積層は、農耕地として最も適当なことは論を要せぬ所であります。然し建築敷地としては、地盤が軟弱で不適當であります。

我が国に於いては最近百年程の間に、十数回の大地震に依る家屋の倒潰及び大火災と津波又は大洪水の災害を蒙つて、これが復興のために国民の負担は年毎に重く、国民は常に塗炭の苦しみを続けて来たのであります。今後と雖ども大地震や大洪水は、度々周期的に必ず起るものと覚悟せねばなりません。それに引き替え、高原地帯、丘陵地帯及び海拔一〇〇米突位より以上のところは、概ね地盤が堅く、建物の建築には至つて安全であり、水害の惧れもなく景色も勝れて水もよく空気も清澄であります。

これは取りも直さず、平坦肥沃にして耕すに耕し易く、然も収穫高の多い所は農耕地として耕せよとの大自然の教訓であり真理であります。

然るに日本の農耕地は五〇パーセント以上寒冷斜面の雛壇式の段々田畑でありますので一年間一毛作地が多く常に不作地なのであります。十米突も隔たずして石垣又は畦に突き当る等、牛馬による耕作ですら満足に出来ず、至つて非能率であります。殊にかゝる農耕地は冷害及び旱魃にて屢々不作は免れないのであります。これが日本の現在に於ける農業の実態であります。

およそ平和国家となる第一条件である食糧自給自足の大国土改良を實行せんと欲するに

は、先ず平坦地と海拔一〇〇米突以下の所は、出来得る限り農耕地とする法律を定め、農業、漁業、製塩業、海産物採取業、造船、製鉄、海運、貿易等、之れに関連して必要な施設の外は、農業に適する地は潰さゞることにしなければなりません。故に今直ちに米軍の絨毯爆撃によって戦災を受け焼野原になっている全国平坦未耕地、及び沼沢湿地、遠浅海岸、入江など五〇万町歩を米麦二毛作地として、開発干拓すれば優に米のカロリーに換算して二千万石に相当する増収をなし得るものと思います。

従つて現在日本の主食物の収穫高を仮りに最低米五千八百万石、麦一千二百万石、計七千万石と前に述べました増収見込みの二千万石を合せて合計九千万石の最低収穫高となし、これに甘藷十五億万貫と、馬鈴薯五億万貫の収穫高を加うる時、初めて食糧に対する不安は解消し、更に牧畜及び漁獲物等の動物性蛋白、脂肪の計画的増産に依り、日本の人口が一億万人になるまでは食糧問題に付、いさゝかも心配をする必要がなくなるのであります。

今次の敗戦までは、平坦にして一年間二毛作をも収穫し得る肥沃豊穡の農耕地が、軍の諸施設とそれ等のために異常なる膨脹をなした大中の都市と軍事施設に関連する諸工場の拡張のために広大なる農耕地が潰され、それが一朝にして戦災を受け、今日尚焼野原になつて居る、此等をも農耕地とすることなのであります。

肥沃豊穡の平坦地を農耕地とすることによって、収穫高は寒冷斜面の籬段式の段々田、畑に比べて労力は三分の一にして約三倍の収穫をなし得るのであります。

例えば寒冷なる斜面の籬段式の段々田にありては、一反歩当り収穫が米一石か一石二斗に過ぎません。之に比べて平坦肥沃の農耕地は、一反歩当り収穫は優に三石乃至三石五、

六斗は収穫し得て、然も米麦二毛作が可能であり且つ冷害及び旱魃に因る不作がないのであります。

斯様な食糧自給自足の大国土改良を實行すれば、毎年食糧輸入のため外国へ支払う二千万円は、国民生活向上のために廻ることとなり、国民生活は益々豊かとなって、真に平和愛好の民族として世界平和に貢献することが出来るのであります。

尚、前に述べました道路網及び多目的ダムに依る水力発電所の建設が完成の暁には、完備せる観光施設の充実と相俟って、世界に比類稀なる理想楽園郷が出現して、国際観光客による一年間、一十億円以上の外貨獲得が可能なることは、国際観光の先進国スイスに比べて決して不可能ではないのであります。

斯くの如く日本は、景色も勝れて気候もよく空気は清く水はよし、食糧を外国より輸入する必要がなくなれば、我が日本こそ太古以来人類が待ち望んだ地上楽園の模範となるのであります。我々の愛する子孫の為に立派な平和で文化の高い国を造って贈りたいものと思ひます。

平和国家建設国土計画大綱

田 中 清 一

本文は昭和二十四年十月二十日平和国家建設国土計画大綱として
天皇 皇后 両陛下の御下問にお答えして私が御説明申し上げた大要であります。

人口と食糧

私はこの日本を最も早く確実に平和で文化の高い国家に立て直すためにお話し申し上げます。
たいと存じます。

日本で一番大切なことは申し上げるまでもなく人口と食糧の問題が真先きに取り上げられなければならぬと思います。

道義の頹廢も思想の混乱も交通機関の混雑するのも、仕事の能率が上がらぬのも物価が高くて苦しむのも、社会不安の根本は皆食糧の不足から起つて来るものと思います。

如何にしてもこの人口と食糧問題を早急に解決しなければ、我が民族の生存に重大なる不安を与えるものと思います。凡ゆる学問も芸術もお腹が空いては始まらない。

ソクラテスは食べる教育をしないのは教育に非ず、と言ったが、私は政治とは食べさすことなりと信ずるものであります。殊に第二次大戦の末期より終戦以来日本のありさまを

考えましたとき如実にそれを物語って居るのであります。

抑々日本が肇国の昔より大和と号し農を以って国の本とせよと教えられて来たことは、戦争を好む民族にならざる様にと誡められた深遠な哲理であると思ひます。何となれば人類は申すに及ばず、総ての動物は食糧があつてこそ生存が続けられるのでありますから、生命保全の為には先ず食物であります。

此の食物を各国各民族が奪い合うことは必ず争を起す基であるから、食糧に限り自給自足して平和な生活を営ませることが政治の妙諦であります。

人類文化の最高目標は『和む』と言うことでありましょう。仁義も道德も共存共栄と言うことも一切の極致は『和』であると信ずるものであります。故に、聖徳太子は十七条憲法の初めに和を以て貴しと為すと教え給うたのであります。然るに日本は何が故に悲惨なる戦争を一再ならず繰り返したかと言うに、皆人口と食糧の問題からであります。此の人口と食糧の問題を、誤った指導者が誤った方針に依つて解決しようとした結果国の大本を誤つたのであります。

従来平坦にして豊穰肥沃の農耕地が軍の諸々の設備となり、更に軍需工場の拡張により不健全なる都会人口の大膨脹となつて、元来甚だしく平坦地の少い日本は益々農耕地が狭められ、今日の如く食糧危機を醸成する一大原因をなすに至つたのであります。

狭隘なる我国土に於ける平坦肥沃の農耕地は、私共の祖先が長年に亘り撓まぬ努力と汗と油の一滴一滴を流して、神仏の慈悲にも等しい努力に依つて切り開かれた沃野なのであります。此の沃野を無碍に戦争目的準備の為に潰したり、似て非なる生産の為に、例えば

人類の平安なる生活に何の役にも立たず、寧ろ我が民族を不幸にする有害なる施設のために無関心に潰してしまふことは、祖先の御恩を忘却し人類共存共栄の見地から天則を無視し、人道に悖る悪行であるから反省しなければなりません。

従つて今次敗戦を契機として宜しく平和日本再建の大経綸を樹立し、再びかゝる失敗を繰り返すことなきよう百八十度の大転換をなし、一切を挙げてこの「禍」を転じて「福」となさねばなりません。

それが為には今直ちに永遠の平和国家となる必須条件である、食糧自給自足の大国土計画を実行することこそ、禍を転じて福とすることになるのでございます。

食糧自給国家にならざれば平和民族となり得ざる其の理由は、日本は何故に軍国主義的国家になつたかと申しますに、人口と食糧の問題を解決せんが為に外ならないのでありました。

限られた狭隘な国土に於て人口の急激なる増加になやみ、己むに止まれず海外への進出策となり、領土拡張を意図するに立ち至つたのであります。従つて海外への進出には強力なる外交を必要とし、強力なる外交を行わんとするには強力なる軍隊を必要とするに至つたのであります。今こそ敗戦という現実を通して真の平和日本国を建設する絶好の機会であり、千載一遇の時であると考えるのでございます。

食糧の外国依存は一年間二千億円と言う莫大なる輸入資金調達の為、勢い輸出優先を強行する結果飢餓輸出の名に依る「ソーシアル・ダンピング」を誘発する惧れがあるのであります。何となれば食糧は生命に係わるに反し、日本よりの輸出品は概ね贅沢品か不急品

で生命には係らないからであります。同時に莫大なる食糧輸入は資金の面で、国民生活の向上と重要生産増進のために必要な原料及び材料の輸入を不可能にする惧れがあるのです。又輸出のみに依りて外貨を獲得せんとするときは、市場の争奪又は種々の事情に依りて国際的摩擦を起す元となり、摩擦を起すことは戦争を誘発する惧れがあるのであります。

殊に我国に於ける石炭の埋蔵量の少きこと、且つ近年急速なる森林資源の枯渇等将来の燃料や動力問題を考うる時、今直ちに治水治山の為にも一大造林計画の實行と同時に、特に多目的ダムを作つて大々的に水力発電計画に着手せざる時は、近き将来鉱工業の衰退を招くばかりでなく輸出工業に於ても永續の見込が立たず、従つて国民生活の低下は免れないのであります。

更に現在世界に於て食糧輸出の能力を有する国は僅かに三、四ヶ国に過ぎず、残余の国々は殆んど全部が食糧輸入国であるから、世界的飢饉又は測らざる事態の発生をも考うる時、食糧に限り輸入に依存することは日本民族の生存上危険この上もなきこと、考えるのでございます。

ここに於て結論として食糧のみは自給自足して如何なる時に於ても国民の心を常に平正に保たしめ、衣食足りて礼節を知る諺の如く、移民に於ても輸出品に於ても、諸外国より歓迎せられる程の優秀なるもの、みを送り出すことが永遠の平和を齎す所以なりと確信するものであります。

さて狭隘なる我国土に於て食糧の自給自足を計るには、到底在来の常識を以つては考え及ばざる画期的国土改良を實行する必要があるのであります。

これには先ず全国的に道路網を完備して日本国土の八十%にも及ぶあの綺麗な山や、丘陵地帯及び高原地帯を住宅地域となし、現在の都会となりつゝ、ある平坦肥沃にして、旱魃もなく冷害もなき地を農耕地となさねばなりません。

故に従来の都市計画のあやまちを根本より立て直す為に、先ず第一期として着手すべき新しき道路は、神戸より大阪を経て近江平野を通り、濃美平野の中心を貫き、岐阜県中津川より長野県飯田を経て諏訪湖に至り、軽井沢、高崎、宇都宮を経て那須野を通り仙台、盛岡、弘前を経て青森に至る、所謂日本の背骨とも称すべき一線に、二十四米突幅四車線の高原地帯を通る背骨道路を建設して、日本海及び太平洋岸の重要都市、重要港湾、重要穀倉地帯よりは現在無数にある一級及び二級国道、並びに都道府県道を助骨型に拡幅強化、完全舗装して、この背骨道路と連絡せしめ運輸交通の便を計り、更に背骨道路の長野県飯田より天竜峽を経て赤石山脈中の聖岳の南、海拔九百五十メートルの所にトンネルを穿つて大井川に出で、青蘆山を貫いて富士川の支流早川に出で、身延の北、下部温泉を通りて本栖湖畔に出で、精進湖、西湖、河口湖を経て富士吉田を通り、大月、八王子を経て東京に至る、二十四米突幅四車線の中央道を建設することにより、東京大阪間に最短距離約四百三十軒、自動車にて約四時間半の中央道を開設する事が、本計画を一層有意義ならしむる最も重要な条件であります。

而して之等の道路に副う河川は、悉く米国テネシー河及びコロラド河流域開発方式に則

り、多目的ダムを建設して約三百七十万キロの水力電気を開発し、超精密工業、軽工業、各種の研究試験場、諸官公庁及び上級学校、其の他の生産を伴わざる施設を、此の道路に副う現在未開発の土地又は農耕不適の土地に建設して、現在の不健全なる過大都市は疎開し、斯くして雄大なる大自然に触る、高原健康文化地帯となせば、住民は心身共に浄化し自から繁栄すること、信ずるのでございます。

尚この道路開設に伴って、眠れる奥地森林資源の利用、保存、管理に便ならしむる外、地下資源及び観光資源をも開発し、更に日本特有の丘陵地帯及び草原地帯を利用して広大なる牧場を各所に設けて国民の栄養を増進し、同時に治水治山の問題と、農山村に於ける次、三男対策は以上の施設充実に依りて根本的に解決出来るのでございます。而して国内の南に面する平坦肥沃にして、一年間二毛作を収穫し得る所は出来得る限り農耕地となさねばなりません。

御承知の如く現在の都会となりつゝ、ある大河川の河口デルタ地帯、又は海岸の沖積層は農耕地として最も適当なことは論を要せぬ所であります。然し建築敷地としては地盤が弱く不適當であります。

我国に於ては最近百年程の間に十数回の大地震に依る家屋の倒潰、及び大火災と津波又は大洪水の災害を蒙って、これが復興の為に国民の負担は年毎に重く、国民は常に塗炭の苦しみを続けて来たのであります。今後と雖も大地震や洪水は度々周期的に必ず起るものと覚悟せねばなりません。

それに引き替え高原地帯及び海拔百米突位より以上の所は概ね地盤堅く建物の建築には

至って安全であり、水害の惧れもなく景色も勝れて水もよく空気も清澄であります。之れは取りも直さず平坦肥沃にして耕すに耕し易く、然も収穫高の多い所は農耕地として耕せよとの大自然の教訓であり真理であります。

然るに日本の農耕地は五十%以上寒冷斜面の籾壇式段々田畑でありますので、一年間一毛作地が多く常に不作地なのであります。十米突も隔たずして石垣又は畦に突き当る等、牛馬による耕作ですら満足に出来ず、至って不能率であります。殊に斯る農耕地は冷害及び早魃にて屢々不作は免れないのであります。之れが日本の現在に於ける農業の実態であります。

凡そ平和国家となる第一条件である、食糧自給自足の大国土計画を實行するには、先ず平坦地と海拔百米突以下の所は出来得る限り農耕地とする法律を定め、農業、漁業、製塩業、海産物採取業、造船、製鉄、海運、貿易等之れに関連して必要な施設の外は農業に適する地は潰さざることになければなりません。故に今直ちに戦災に因りて荒れ果てたる全国平坦未耕作地、及び沼沢、湿地、遠浅、海岸、入江、など五十万町歩を米麦二毛作地として開発干拓することに依って、優に米に換算して二千万石に相当する増収をなし得るのであります。

従って現在日本の主食物の収穫高を仮に最低米五千八百万石、麦一千二百万石、計七千万石と前に述べました増収見込みの二千万石を合せて、合計九千万石の最低収穫高となし、これに甘藷十五億万貫と馬鈴薯五億万貫の収穫高を加うるとき、初めて食糧に対する不安は解消し、更に牧畜及び漁獲物等の動物性蛋白質脂肪の計画的増産に依り、日本の人口が一億人になりましたも食糧問題に付きいさ、かも心配をする必要がなくなるのであります。

今次の敗戦までは平坦にして一年間二毛作をも収穫し得る肥沃豊穡の農耕地が、軍の諸施設とそれ等の為に異状なる膨脹をなした大中の都市と、軍事施設に関連する諸工場の拡張の為に広大なる農耕地が潰され、それが一朝にして戦災を受け、今日尚焼野原になって居るこれ等をも農耕地とすることなのであります。肥沃豊穡の平坦地を農耕地とすることに依って収穫は、寒冷斜面の籾壇式の段々田、畑に比べて労力は三分の一にして約三倍の収穫をなし得るのであります。

例えば寒冷なる斜面の段々田にありては一反当り収穫が米一石か一石二斗に過ぎません。之れに比べて平坦肥沃の農耕地は優に三石乃至三石五、六斗は収穫し得て、然も米麦二毛作が可能であり、且つ冷害及び旱魃に因る不作がないのであります。斯様な食糧自給自足の大国土計画を実行することに依ってはじめて食糧自給国家となり、毎年食糧輸入のため外国へ支払う二千億円は国民生活向上の為に廻ること、なり国民生活は益々豊かとなって真に平和を好む民族として世界平和に貢献することが出来るのであります。

尚前に述べました道路網及び多目的ダムに依る水力発電所の建設が完成の暁には、完備せる観光施設の充実と相俟って、世界に比類稀れなる理想楽園郷が出現して、国際観光客による一年間三億ドル即ち一千億円以上の外貨獲得が可能なることは、国際観光の先進国スイスに比べて決して不可能ではないのであります。

斯くの如く我が国は景色も勝れて気候もよく、空気は清く水はよし、食糧を外国より輸入する必要がなくなれば、我が日本こそ初めて人類が待ち望んだ地上楽園の模範となるのでありますから、皆様と共に一日も早くこの国土計画を実行いたしたいと存じます。

そこでこの建設予算捻出の方法は、日本の全国民が現在八千五百万人といたしまして一人が一日一円ずつの新しい国造りの目的貯金を致しますれば、一日に八千五百万円、十日に八億五千万円、一ケ年には三百十億二千五百万円という大金が貯蓄され、この貯金を見返りに建設公債を発行して失業救済の土木工事を起すことによりまして完全雇傭が実現し、この偉大な第一期計画が数年を出でずして完成するのでございますから、我々の愛する子孫の為に立派な平和で文化の高い国を造って贈りたいものでございます。

国土計画・田中プランを評せられた

米国著名人 スチブソン氏の祝辞

昭和二十七年十一月三日、株式会社富士製作所の創業満三十五周年記念、及び創立者の取締役会長田中清一氏の還暦祝に来賓として臨席をされたスチブソン氏の祝辞記録

◎拍手「スチブソン氏の登壇」

本日こゝに、日本の著名な工業関係者多数の諸氏と共に、心からこの盛儀をお祝い申し上げることは、私の大きな名誉とするところであります。

私は田中会長と知り合ってから、まだそんなに長くはありません。然しはじめてお目にかゝって、種々お話をして見て、日本にもこんな偉大な仕事を考える、偉大な人物があることを発見して、心から驚歎したのであります。

田中清一氏の多年熱心に主張される国土計画案は、日本でこそ或は大変な問題であると考えられる人があるかも知れませんが、アメリカに於いては、斯様な問題はすでに相当久しい前から着々実現されて、偉大な実績を上げているのであります。現にTVAとして日本に

もしばしば紹介されている、テネシー河流域綜合開發の如き、その最も代表的な一例といふことが出来るのでありましょう。

ミスター田中は若い時から、或は木樵きこりもやり、或は百姓にもなり、幾多の尊い經驗を積まれたそうでありますが、アメリカの歴史が示す通り、かのアメリカの偉大な政治家として、民主主義政治を確立したアブラム・リンカンも、かつては木樵もやり百姓もした人物でありまして、それでこそかの偉大な人物になったことを思い合わすならば、この点、リンカンとミスター田中には国家の運命を開拓する偉大な人物として、彼此相通ずるものがあるやに感ぜられるのであります。

田中会長の国土計画案は、アメリカに於いても、すでに有力な政治家や、財界人の間によく知られていて、多数の賛成者があることを承知しているのでありまして、現にマツカーサー元帥はいうまでもなく、かつてGHQ即ち連合軍總司令部スケネク天然資源局長、その他GHQ幹部の全てが、極めて熱心に、この問題を全面的に支持し、かつ協力した事実を承っております。

そしてこれらのアメリカ人は、何れも平和で、文化的で繁榮する新らしい日本が、このプランを実現し、解決することによって、間違ひなく、もたらされることを確信し且つ期待しているのであります。

私の承知するところによれば、ミスター田中は、決して単なる机の上のプランメーカーでないということでもあります。それが証拠には、本日のこの立派な沼津工場も、その設計は勿論自らやられたものであり且つ自ら工事を監督されたものであります。

その上幾百台にもなる工場の非常な精密機械も、全部自ら設計し、自ら製作を指導さ

れたということでありまして、これらの事実に基づいて考えて見ると、ミスター田中の国土計画は、永年の尊い経験に加えて、最も近代的な科学と技術の上に立つ、極めて合理的なプランであると申して差し支えはないと信じます。

今日日本に於いては経済の完全自立、而してこれに基づく産業の発展、国民生活水準の向上、文化的生活の昂揚、ということが大きなテーマであります。田中氏の国土計画案こそは、これを解決する唯一の鍵であり、これによって真に日本が平和で、文化的で且つ道義の高い国として繁栄し、更に共産主義の脅威も自ら解消するに至ることを確信致します。

アメリカに於いて、すでに幾多の例によって、示されている通りこの案が一日も早く実現して、明るい平和日本の確立されんことを、心から念願してやまない次第であります。

(拍手)

当日のおもなる来賓(順序不同)

元商工大臣 中島久万吉殿

元鉄道大臣 八田嘉明殿

元侍従次長
元皇后宮大夫 木下道雄殿

元公爵 一条実孝殿

元陸軍大臣 宇垣一成殿

同 令夫人殿

元 内務大臣
厚生大臣

米国の来賓

安井英二殿
スチブソン殿
M. FLOYD A STEPHENSON

元三井鉱山
株式会社社長

三井高修殿

参議院議員

尾崎行輝殿

商工省
重工業局長

葦沢大義殿

主婦の友社長

石川武美殿

静岡県知事代理
静岡県出納長

田口英太郎殿

沼津市長

塩谷六太郎殿

駿河銀行頭取

岡野豪夫殿

日本工業クラブ
常任理事

中村元督殿

国土建設推進連
盟全国推進者

数十名殿

(株)富士製作所
全国の主な顧客

数十名殿

(株)富士製作所
重役、従業員

五百余名

(お詫び)

国土建設推進連盟の各位様
御富士製作所の御得意先様

御芳名を記載すべき処、多数でござい
ますので本誌には省略させていただきます。
頂く失礼をお許し願います。

(編集者)

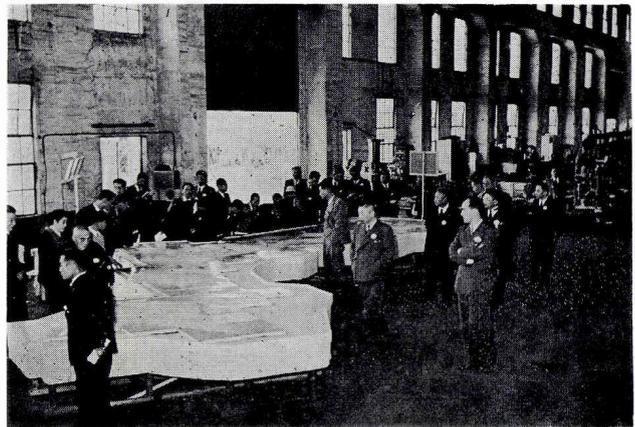


株式会社富士製作所の創業35周年記念式典

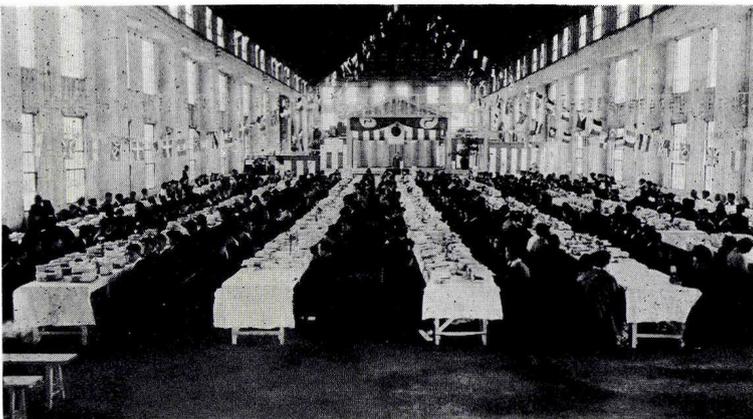


壇上は米国スチブソン氏の祝辞

〔昭和27年11月3日〕

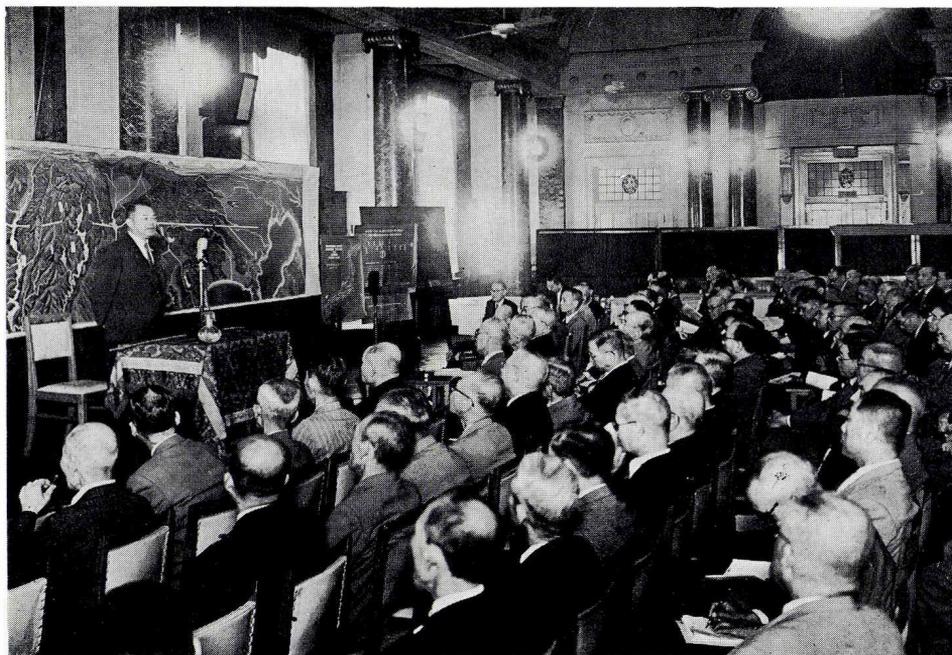


富士製作所の工場内に陳列された「国土計画」の立体模型
(石膏製、日本全上の20万分の1)



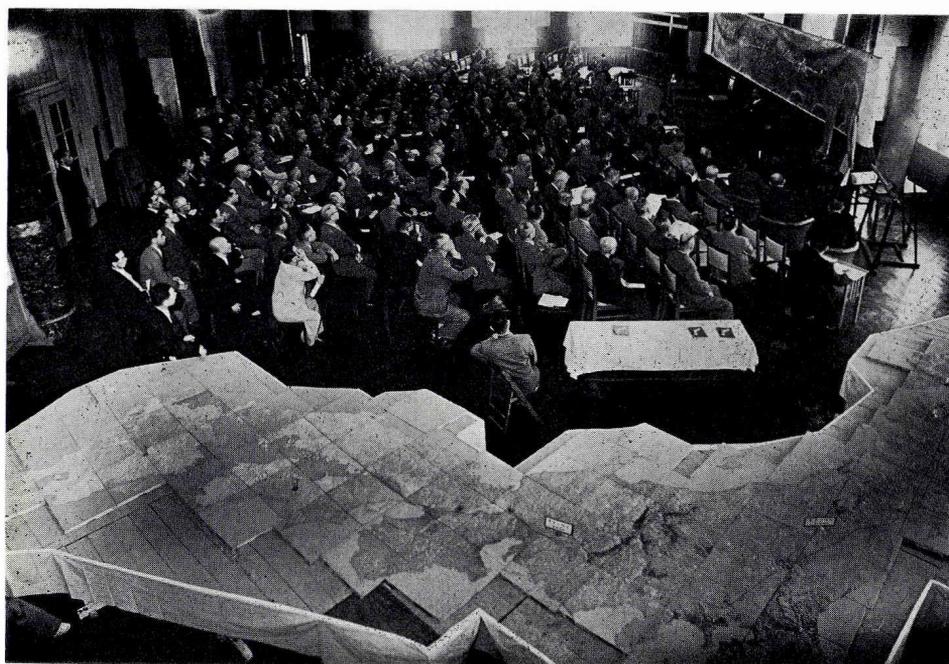
工場内に設けられた祝賀宴の状況

日本工業クラブ木曜講会演



株式会社富士製作所取締役会長 } 田中清一氏の講演
財団法人・田中研究所・理事長 }

〔昭和29年6月24日〕



会場を埋めた工業クラブの会員と、陳列された「国土計画の模型」

(石膏製、日本全土の20万分の1)

昭和二十九年六月二十四日

於 日本工業クラブ木曜講演会

一、講演者

株式会社富士製作所取締役会長
国土建設推進連盟会長

田中清一氏

一、司会

日本工業クラブ常任理事

中村元督氏

一、聴衆

約四百五十名

◆司会者 中村元督氏

本日の講師である田中清一さんは、当クラブの会員であり、御職業は株式会社富士製作所の社長であり、国土開発推進連盟の会長をなさっておられる方であります。

いわゆる国土開発縦貫中央自動車道の発案者で在られます。皆様御承知の通り、新聞紙上で御覧のことと存じますが、愈々今回、田中プランが政府に於かれまして吉田総理大臣より、この度新らしく建設大臣になられました小沢佐重喜氏に、この田中プランの審議を命ぜられましたことを新聞で拝見いたしております。左様な次第でありまして、去る十九日に愈々田中案を、担任の審査会を作られて、審査をなされることになりました、まことにお芽出度う存じます。

田中さんは終戦直後この問題を研究せられまして、

南は九州の鹿児島から、北は北海道の稚内まで、いわゆる草鞋ばきで跋涉せられまして、私費壹億数千万円を費されこのところ七、八年は寢食を忘れて、この国土開発縦貫中央自動車道の研究をされ、そうして立派な案を立案されたのであります。連合国軍総司令部（GHQ）が東京にございました時、天然資源局長のスケンク氏が大変この案を推賞せられまして、自ら飛行機で空中から測量をやって下さったと承っております。左様なことで天然資源局へ田中さんが行って、GHQの将校に田中さんがお話をされまして、そして種々の模型等作ってお目につけた、其の後

天皇 両陛下の思召しでは是非その田中さんのお話を聞いて見たいと言う思召しでありまして、その時作られた模型があそこに陳列してある実物模型であります。その時、

天皇 兩陛下に田中さんがお話を申し上げた、さよ
な歴史を持って居るのでございます。

本日は会員の皆様かくも多数御参集下さいまして、
田中氏のお話をお聴き下さいますことになりました
ことは、世話役といたしましてまことに光栄且っ厚
く御礼申し上げる次第であります。

これから田中さんのお話がございしますが、その前
に実は私共中央道の期成会というものを作りまして、
田中さんの後援をやって居るのでございます。その
後援会の会長の中島久万吉さんに、一つお話を願
度う存じます。(拍手)

◆中島久万吉氏登壇(拍手)
(中島氏は元商工大臣
日本工業クラブ会長)

私は今、中村君から御披露に及ばれました中央道
期成同盟会の会長といたしまして、数年来田中さん
の事業にいささか微力を致して居るものであります。
只今中村君から御報告になりました通り、漸く上下、
朝野の認識を得ることになりました。この計画が軌
道に乗ることに相成ったのであります。私もそうい
う因縁で田中君の成功を喜び、非常なる尽力に対す
る田中君の功労を讃え、併せて前途を祝福して居
るのでございます。

本日は工業クラブの会員諸君が斯く御多数御来集
頂きまして、田中君のお話をお聞きに相成るとい
うことは、私といたしましても極めて本懐に堪えない

次第でございませう。

私は只、この際、田中君の為に一言皆様に御了解
を願っておきたいと思ひますことは、田中君は只今
中村君の御報告中にございました通り、この事業を
発起され実践され、その間壹億数千万円の私費を投
げうって、恬としてそれを顧みるところがない位、
非常に愛国の至誠に富んだ方でありますので、かく
財界の有力なる各位がお多数御来臨を頂きましたこ
とに對しまして、田中君が豪も皆様に御迷惑をか
ける、単に経費の上だけでなく、自分の事業自体に
對しまして、いわれのない御迷惑をかけるなどと
いう考えは少しもないと、私は保証いたしますから、
どうか皆様も田中君の御説明を虚心坦懐にお聴き取
り頂きまして、若しこの間、田中君の為、何等か御
貢献を頂きますものがございましたら、どうか田中
君の志に對して尽力をおしまんという心持ちで、今
後共田中君の為に御尽力を頂きたいと存ずる次第で
ございます。

これは私が中央道期成同盟会の会長といたしまし
て、田中君の為に一言御挨拶を申し上げるゆえん
のものでございます。御諒承を頂きたい。(拍手)

◆司会者 中村元督氏

幸なことに、本日吉田総理大臣の主席秘書官の木
村さんがお出でになつて居りますので、非常によい

機会でありまして、木村さんから一言、(拍手)

木村公平氏登壇(拍手)

私は今御紹介に預りました木村公平であります。

実はこの田中さんの中央道の構想は、既に四、五年前に当時私が自由党の副幹事長の末席をけがして居りました時に、はじめて承知をいたしました。その瞬間この構想に対してほれこんだ訳であります。なかなかその後遅々として、この大構想がお役人の不勉強が主たる原因で、取り上げられなかったのでありますけれども、漸く昨今に至りまして吉田首相も本腰を入れるようになり、新しい建設大臣になりました小沢重喜君も非常な熱意を示すようになりましたので、明日頃の新聞に発表されることと思えますが、建設省を中心にいたしまして農林省、経済審議庁、さらに大蔵省、運輸省等から代表を出して頂きまして、建設省が考えました東海道案と、この中央道の案と、どちらがよろしいかということ、一つ最終的に決めようじゃないかという委員会を設立することを決定したのでございます。

中央道と申しますとすぐ弾丸道路をご連想になりまして、日本の国力からまだぜひいたくではないかという御批評もあるかに承るのであります。私共のねらいは結局、日本の地勢は御承知の通り八割が山岳高原地帯でありまして、わづか二割が平坦部であ

りますが、この八割の山岳高原地帯を放擲致しまして、猫額大の二割の平地に八千万人近い大部分の日本人が密集して住んでいるところに、住宅難の問題があり、或は就職難の問題があり、食糧不足の問題もあると、私共は考えているのであります。従いまして今後の大きな政治的の命題は八割の山岳高原地帯を、如何にして総合的に開発するかという問題でなければならぬと思ひますし、これが国会あたりで愚劣な鬭争をして居るより、何よりも一番大事な大目的でなければならぬと、私共は考えて居るのであります。然らばそれは具体的にどうしたらよいか、いろいろ方法はございましょうが、先づ北海道の稚内から鹿児島まで、日本の国土の真中に、幹となる道路を一本国家の力で作つたらどんなものであらうか、さすればこの幹線道路から枝のように、各府県で必要であれば、自然発生的に支線というものが自ら出来上って来るものと思ひるのであります。従いまして名前は弾丸道路と申しまして、産業道路といわれることも結構であります。道路を作るということ、あくまで手段であつて、これは山岳高原地帯の開発ということがあくまで終局の目的でなければならぬ。これを開発することに依つて住宅地が拡充され、更に地下資源が開発され、森林資源が開発され、水力資源が開発され、あまたの利益が

当然起つて来ると思います。この道路を或は弾丸道路、防衛道路ということに依つて、道路だけに狭い視野から着目されることを私共は好まないものでありまして、矢張りこれは一つの前提であつて、田中氏の十年に亘りまする大構想は結局これを前提にして、日本の八割に及ぶところの山岳高原地帯及び丘陵地帯を出来るだけ開発して、人口密度を疎散分布したい。学校等も散在せしめたい、あらゆる面に於いて、もう少しゆとりのある日本を自発的に作ろうじゃないかということが終局の目的である訳でございますので、今日ここにお集りの方々は、日本に於ける財界の名士でございます、そのみならず頭の緻密な精密な工業界の雄でもあらせられる訳でありますので、皆様方の御批評を得まして御賛成を得ることが出来ましたならば、田中会長は非常なお喜びであると同時に、国家の為に私は同慶に堪えざるところであると確信いたします。

何とぞこれから田中氏の年来の御構想を充分お聴きを願ひ、御批判を願ひたいと思ふ次第であります。甚だ簡単であります。御挨拶いたします。(拍手)

◆司会者 中村元督氏

それでは田中さんのお話をこれからお願いいたします。どうか暫くの間、御静聴をお願い致します。

(拍手) ◆田中清一氏登壇 (拍手)

私は只今御紹介を頂きました田中清一でございます。本日は皆様、時節柄御繁多に在られるにも拘りませず、私の拙ない研究をお聞き下さる為に、かくも多数御参集下さいましたことに対しまして、感激を致して居る次第でございます。

実はこの説明にかかる前に、どうしてお前はそういうことを考えたかという御疑問がございましょうから、それを僅かばかり述べさせて頂きます。

御承知のように日本は計らずも敗戦を致しまして、領土は非常に狭められました。人口は益々殖えます、そうして資源は乏しい、どうしてこの八千何百万、やがて九千万にもなろうというこの人口を擁して生存するかということを考えました時、種々の角度から考えまして、泣きの涙でやって見たのです。

ところが今、一般に申されているこの問題を解決する方法が、三つ四つあるように世間では称えられて居ります。その前に第一に私共は明治以後に於きまして、あの悲惨な戦争を数度繰り返しました。その理由は何かであるかと申しますに、人口と資源のアンバランスでございます。種々の理屈はございますが、就中人口と食糧のアンバランスが齎らすものでございます。これは日本ばかりではありません、独逸のヒットラーがウクライナへ乗り込んだのもそうでございます。地上に、歴史上にある全ての斗争の

元は、人口と食糧のアンバランスであることを、我々は承知致して居るのでございます。そこでそういったことを繰り返すをやめなければ、世界は平和にならないのでございますから、よその国のことを言うことはありませんが、我々は自らこの敗戦を契機として打ち出さねばならん責任と義務があるのであります。

そこでこの人口と食糧の問題、まあ資源の問題と申してもよろしゅうございますが、就中食糧の問題でございます。これを解決しなければ、いかに観念論を百万遍ならべても、平和国家にも、文化国家にもならないのでございますから、これを解決したものが救世主でございまして、決して救世主は天から降って来ません、地から湧き出て来ません。私はモーズが乳と蜜の流れるところへ連れて行こうと言つて、あのイスラエルの民族を率いて行った時の気持がわかります。ほんとうに人口と食糧の問題を解決して、年がよろうが、子供が沢山あろうが、主人が病氣して居ろうが、奥さんが病氣して居ろうが、子供が病氣して居ろうが、絶対喰べさすことに心配ささんぞ、かくかくの如く具体的にこれだというものを示して堂々とやつてのけて、国民に安心を与えたものが救世主であると思ひます。私は国民に充分に喰べさせさえすれば、道義が昂揚し文化は向上

すると確信いたします。そこで、それをするのにはどうしたらよいかということになりますと、世間で種々言うのには、一つ人口と食糧の問題を解決するには産児制限によって解決すればよろしいと言う人がある。甚だ失礼ながら私の調べました範囲に於いては、日本に毎年百万人づつも殖えて行きつつある人口を、どうして産児制限のみによって解決が出来るでしょうか。恐らく百年も二百年も末にはどうなるかは知れませんが、日本には千何百年も前から各種の宗教が入つて居ります。就中日本には仏教が最も盛んであります。この仏教はもの命を取るということを非常に嫌うのです。農山村に於きましては、田甫に石灰を撒いて蛙やどじょうや多くの虫類が死んで田甫に浮いて居る所を見て、あれが可愛想で今日はご飯がおいしくないというような状態が日本の農山村の実態です。どうして人の子を出来て来るのを順々に間引くことが出来ましょう、農山村の経済上から言ひましても最も子供の多く出来る農山村に、こんな器具を使え、こんな薬を呑めと言つても、農山村に於いては技術的にも経済的にも不可能なのであります。産児制限の出来る人は比較的裕福な人か、都会に於ける知識階級の人のわづかな部分に過ぎないのであります。

日本の大多数の国民一般には通用しない机上の空

論です。その次に申しますもっともらしいことは、こんな小さい国に居るよりは一つ移民をした方がよい、これもまことに立派な話でございますが不可能でございます。どうして不可能だと申しますと、私共は今度の敗戦に依って、ソ連の沿海州のナホトカから着のみ着のまま帰って来るのに、一万噸級の船に二千名しか乗れないのです。その前に今、日本人は残虐な野蕃人だというので、世界中から追い返されて帰って来たのではありませんか、現在、日本で増加する人口だけで、一ヶ年に百万人ふえているではありませんか、増加する人口だけでも移民を受け入れて呉れるような、慈善な国はどこにございましょうか、若し奇跡が起って、日本ではそんなにお困りであるならば、一つ移民を引き上げて上げましょうという国があったとしまして、一万噸級の船に着のみ着のまま乗っても、二千名しか乗れないのです。今後は支那やソ連では到底移民をさせてはくれないでしょう。若し移民を許されてもブラジルか、余程近いところでもオーストラリア位なものでしょう。さすれば二週間も三週間も船で行くとしたら、寒暑に対する必要な衣類も持って行かねばならない、先方へ行って働く為の道具も持って行かねばならないでしょう、また先方へ行って落付いて、収穫を得るまでの準備の食料も持って行かねばなるま

い。種々考えると一万噸級の船に千名も乗船がむづかしいと思う。若し千名しか乗れないとすると十万噸で一人、百万噸で十万人、一千万噸で百万人、この計算で見ると一ヶ年に日本で増加する人口だけ移民をしても、日本に現在ある船を全部充てても不可能じゃありませんか、机上の空論であるから移民は駄目です。

百名や千名や二千名行っても、その為に日本に官庁が出来たり、出先きに移民の事務所を作ったり、沢山の官吏がふえてマイナスになってしまおう。これも駄目でありましょう、そんなものは国の為になりません。

その次に工業クラブで申し上げることは、まことに憚ることではありますが、私は「鉄工業」でございます。小規模でありますけれども、三十七年の間に一度も破産をせずに続けて参りましたが、製品はタイ、仏印、ビルマ、ボルネオ、印度は勿論、ヒリピン等へ輸出して居りますが、私の方は機械製造でございますが、原料も燃料も少ない日本がどれ程の競争が出来ますか。私の機械を印度まで出しますとチエッコスロバキヤや、独逸や英国の機械よりも一割高くなります。機械が悪くて売れぬなら致し方もございませんが、少なくとも私の会社の製材木工機械に於いては、それ等の外国の機械よりも優秀で

あることは一般に認められて居ります。悪くて売れないならば仕方がありませんけれども、よくても値段の競争にまけます。これをどうして解決致しますか。これはまあ機械のことでありますが、日本の輸出の大宗である生糸がアメリカの婦人の靴下であります。これは最近他国の製品に価格の点でまけて売れ行きが以前ほどではありません。その次に日本からミカンの罐詰を売らないといえ、先方はネーブルを喰べて居りましょう。お茶を売らなければ先方はコーヒを飲んで居ります。瀬戸物を売らなければ先方ではアルミニウムや、プラスチックで食器を作って使います。日本から真珠の首かざりを売らなくとも先方様の命にはかかわりませんが、私共の輸入せねばならんものは命にかかわる食糧なのであります。その命にかかわる食糧だけで三百五十万頓買わなければなりません。金額で一十七億円、この莫大な喰べなければ命にかかわる食糧を買わなければならぬのに、先方様の命にかかわらない物を買って貰わなければならぬ、こちらは命にかかわるものを買わなければならず、先方様の命にかゝわらんものを買って貰うような不利な商売はないのであります。これを克服しなければならぬのであります。

その次に尤もらしい話は、日本人は米を喰べ過ぎる、麦に切り替えたらいゝじゃないか、まことにこ

れは頭のわるい話でございます。この麦は天から降って参りません、結局輸入するのでございます。若し日本でこの麦を米と切り替えて今耕している田畑に麦ばかりを作りましたら、現在は一年間に米を一作取って麦を二毛作に作って居るのであります。こういったことは取るにたらん愚論であります。

只今三つ四つ申し述べましたものが、全部駄目といたしましたら一体どうなるのでございましょうか、どうしても日本民族の生存の為に、何か考えなければならぬと思ひまして、それを考え、泣いたりさけんだり、ほんとうに氣違いと言われる程に考えたのです。これではならぬと思つて、一つ高い処から日本の国を眺めて見るつもりで、日本全国の五万分の一地図を全部継ぎ合せて見ましたら、何と日本の国は山と高原と丘陵地帯が多くて、平地はわづかに二〇パーセントしかない。そのわずかに二〇パーセントたらずの平野に、生産に従つて居ない者がいかに沢山住んで居ることか、競馬場あり、競輪場あり、野球場あり、小公園あり大公園あり、生産によらざる施設がどれ程あるかわからぬ。神社じゃ仏閣じゃ、なんだかんだと随分ございます。その僅かばかりの平地をどうして非生産的のことにつぶしてしまふのか、勿体ないことではありませんか、そこで私は一つ考え直しました。今次の敗戦を契機として、百八

十度頭を切り替えて、この八〇パーセントある山と高原や丘陵地帯を生かし、生産に依らざる施設を高原地帯に移し、道路さえあれば日本人の最も特技とする精密工業とか、軽工業とかを高原地帯へ持って行って、上級学校であるとか、全ての生産によらざる施設も、この高原地帯を持って行けばよろしい、そうしてこの二〇パーセントしかない大河川の沖積層の二毛作出来て冷害も早魘もないようなところ、即ち米を作っても一反で十俵も十二俵も十五俵も取れる、また二毛作で麦が一反歩で八俵も十俵も取れるところを農耕地として生かして使ったらよいではないかということを考えてあります。これを思い付いた昭和二十年頃、このプランを発表した時は、まだ東京も大阪も名古屋も日本の大中の都市は戦災で一面の焼野原であったので、あの時だったらこの問題は何の抵抗もなく楽々と出来たのであります。が、然し私のこの進言が入れられずして、大都会がどんどん復興しつつあるのであります。私は現在の大都会を全部なくしてしまえと言うのではありませんが、日本は世界で一番か二番の大地震国でありまして、私の生れる前の年が濃尾の大地震でありました、それから一昨年の福井県の九頭竜川の沖積層の大地震でひっくり返った、焼かれた、あれまで入れます、日本の国が破産するような大地震のみで

も十八回ありました。三年か三年半位に一度づつ大地震が起ることになるのであります。

御承知のように日本は木造家屋が大部分でありますから、地震で倒壊したら大火事になる、必ず焼けるに決っている。また海に近いところでは津波が来て流されてしまう、その外に三百戸や五百戸ひっくり返った、焼かれた、津波に流されたというような地震は何百回あったかわからん。栃木県の今市にあったような地震は数にせん、そうして一番地盤の弱い大河川の沖積層に、上田地を潰して家を建て、ひっくり返されて、焼かれて、津波に流されて、こんなことを繰り返して居てはきりが無い、そうですからこの国民は税が上らんです。三年目に一遍来るのですから、これを一つ考え直す方法はないかということなのでございます。若しこれを考え直すことが出来ましたら、もうこの外に二毛作取れるところで、冷害も早魘もないところが五十万町歩さえあれば、米のカロリーに換算して二千万石取れるようになります。従って現在日本の主食物の収獲高を、仮に最低米五千八百万石、麦一千二百万石計七千万石と前に述べました。増収見込みの二千万石を合せて合計で九千万石となります。現在さつまいもが十五億貫取れています、馬鈴薯が五億貫取れて居ります。その上

に海産物と牧畜による動物性蛋白、脂肪、これらを計画的に取れるようにすれば、一億人の人口が悠々とこの日本に安住が出来るのであります。若しこの国に食糧が充分にあったと致しましたら、私は日本程よい国は世界中にないと思ひます。この景色のよい、空気のよい、氣候のよい、水のよい、こんなよい国がどこにありましようか、世界の楽園こそこの日本でございます。それだけのことをすれば、この日本国に一億人の人口が平和な道義の高い生活が営まれることになりました時、世界羨望の的になると私は確信するものであります。そこでその様な日本の国を改良するのに、どれほどのお金が掛るかということを予め計算して見たのであります。あの二番目に掲げてある青写真を御覧下さい。あの掲げてある日本全国土の青写真を御覧下さいませ、北は北海道の稚内から南は鹿児島島の指宿の端まで、日本の高原地帯を貫いて通る大背骨道路を建設して、太平洋岸と日本海岸の重要港湾、重要都市、重要穀倉地帯へ肋骨型に、現在通っている一、二級国道、都道府県道を拡幅整備、完全舗装してこの大背骨道路に連絡して運輸交通の便を計ることは勿論、その上に多目的ダムによる水力発電所を、現在ある発電所の外に三百七十万キロ開発して、奥山に眠れる森林資源を今は只で貰っても搬出が不可能なところに五億二

千万石あります、これを利用出来るようにいたします。そうして国際観光収入を一年間に一千億円取れるように出来ます。

食糧は一年間一千七百億円輸入する必要がなくなります。こうなった時、こんなよい国が世界中にあるでしようか。

それだけの仕事を全部いたしますのに約三十億ドル、丁度日本の一兆円予算に相当します。それでこれを十ケ年計画でやると致しますと、一年当り一十億円でありますから大した金額ではございません。

皆様御承知の通り、日本には我々が知って居るだけでも、無駄金が一年間に少なくとも二千億円は賽の河原のようなことに費いやしてしまいます。毎年毎年大災害を受けている、私はまだ一つおとして居りました、前に述べました利益の外に治水治山が完全に出来ません。これを解決するということが、この民族が生きる道であることを発見したのであります。これを北海道の稚内から、鹿児島島の端まで全部やりたいということ、終戦直後の八月二十八日に、総理大臣官邸に出頭して東久邇様はじめ近衛文麿公、米内光政氏にこのことを進言したのであります。東久邇様は非常によいプランである。これ程の大事業は石原完爾でも居ればよいが、あれは追放になるであろうから、折角よい案であるが出来そうもない

ぞ、と、いうことでありました。それで私はやむなく一度帰りましたが、どうしてもやる瀬がないから私はもう一度行きました。どうしてもこうするより方法がないのですから何とかお考え下さいと言いましたら、君が口で言った話だけではどうにもならないから、もう少し精密な図面とか、目論書とか、計算書等も持って来て呉れというお話でありました。私は沼津へ帰り三週間かかってそれ等を用意して柳行季一ばい程書類や、図面や、計画書を持って伺いました。ところがその日に東久邇宮内閣は更迭されることになりました。次の幣原内閣に持ちこみましたけれども恬で受付けて呉れませんでした。その次の内閣も駄目でした。

昭和二十二年三月二十三日の晩に、東京築地の料亭雪村で、吉田総理と当時の内務大臣植原悦次郎氏、元衆議院議長の岡田忠彦さんと、三名に御参集を願ってお話をしましたけれども、第二次吉田内閣の選挙の迫っている時でありました為、ものにならなかった。どうにもならないので東久邇様のところへまた御相談に行きましたところが、マツカーサー司令部に取り上げさすより仕様がな、然し君の趣意書は中々するどいから、心よく受け入れてくれればよろしいけれど、一つ間違うと大きな責任が君にかかって来るから大事をとって言葉など謹みなさいという

ことでありました。私はその当時追放になっていましたし、私の三十年もかかって築き上げた沼津工場は賠償に指定されて居りましたし、一つこの体をはって我が民族の礎にならうと決心して、マツカーサー司令部へ建白書を提出したのであります。一週間位たちますと天然資源局へ出頭を命ぜられたので、悲壮の決意をして司令部へ出頭いたしました。

当時の連合国軍司令部天然資源局長はミスター・スケンクであった。その外に総司令部の顧問としてミスター・アツカマン、ミスター・リチャード、政策企画課長ミスター・ロッチ、ミスター・ラデジンスキーこれ等の大権威者と私は会見して、日本の戦争目的は、人口と資源のアンバランスである。就中人口と食糧のアンバランスが日本をして、かかる苛烈なる戦争に追いこまれたものであることを力説して、この私の提出した計画書の通り、図面の通り、この日本の国土を改良するに非らずんば、連合国軍の意図する如き、平和国家にも文化国家にもなり得ざることを累々力説して、第一日の会を終り、また更らためて総司令部より出頭を命ずるとのことであった。その後二週間の間をおいて出頭を命ぜられ、出頭いたしました。

先方は開口一番このプランは独逸のヒットラーの真似ではないか、「答」そんなことはありません、

また曰く日本は八紘一字とかいって世界中を征服するとも言つて居たのではないか、「答」それは一部の人が言ったかも知れませんが、一般の国民は言いませんし考えても居らない、只一途に人口と食糧の不均衡に依つて飢死することを恐れて居つたので、私共は小学校に行つて居る時から学校の先生や、また時々講演に来る我々が尊敬して居るような方々、また軍人の偉い方々のお話は全てといつてよい程、日本は領土が狭くて人口が多く資源がすくない、就中食糧が足りない、何とかしてこれを解決する方法を見出さなければ、一年に百万人も増加する人口を十年たてば一千万人、二十年もたてば単算的に二千万も三千万も殖えて行く、この人口と資源の問題を、就中食糧の問題を解決しなければ近き将来多数の日本人が飢死しなければならぬというようなことのみを聞かされて居つた。それ等の方々のお話には、アメリカなどは領土が広くて比較的人口が少なく、資源は豊富であつて豊かな国である。日本に一番近いところで満州なども非常に広くて、ほとんど広い地面が遊ばしてあるというようなお話を聞かされて居たものであるから、我々は子供の時から一つ大きくなつたらアメリカへでも移民させて頂いて、そして広い国土で豊かな生活をしたものだと思つて見る位な心持ちであつた。それですからアメリカ人は皆

道義の高い紳士だと思つて尊敬して居りました、ところが一番先きに移民制限をしたのはアメリカではありませんか、その中に日露戦争が起りそして幸か不幸か一応勝利を得た、その結果或る程度の人口を満州へ移住することになつたところが、満州へ日本人が移住することはよろしくないと一番先きに言つたのはアメリカではありませんか、だから我々はこの日本の国に全部の国民が住んで飢死することは出来ない。人類は申すに及ばず一切の動物は飢死することが一番恐ろしい、そうまでアメリカが日本を理解して呉れず、日本の現状を理解して呉れないならば、飢死しない内にアメリカと一戦を交えても辞せずというような心境にだんだんなつて行つた。それが日本の軍国主義になるはじめです。それがだんだん募つて真珠湾の攻撃を決行させたのです。繰り返して言いますが、人間は申すに及ばず全ての動物は飢死することに一番恐怖を感じる。これは恐らく全世界の人類は皆一様であらうと思ひます。この人口と資源の問題、就中人口と食糧の問題を解決する方法を講じて下さらなければ、平和国家も文化国家も空念仏であります。同時に連合国軍の占領目的は絶対に達成されませんと、涙ながらに訴えたところが先方は君は鍛冶屋であると聞いたが、どうしてそんなに人口問題、資源の問題、道路の問

題、山林資源の問題、水力電気の問題、治水治山の問題、平和の問題等万事に亘って、どういふ訳でその何でもわかるかアメリカへも行って勉強したのか、「答」いやいやアメリカへは行ったことはない、それでは日本にそういうことを教育する施設が整って居るか「答」日本には勿論そんな施設はない、それならどうして何でも知っているか、「答」日本人は我々が知っているだけでも二千六百年の長きに亘ってこの島に住んでいたのであります。ところがこの国は非常に災害の多い国であります。毎年毎年時をきめて八月から十月までの間に大雨が降って大風が吹いて、大水が出て田畑は流されて川原になってしまふ、堤防は切れて橋は流され家も倉も流され人間や家畜は沢山死亡するということが毎年毎年三、四回もあるのが通例であります。そのみならず日本は世界に於いても稀な大地震国である、三年目か五年目か十年目に大地震があつて、家屋が倒壊し、日本の家屋は木造が大多数であるから大火災になる、そしてまた海に近い所では津波が来て家は流されるということが、私が生れてからでも十数回の多きに達するのであります。それでこの日本国民の血の中にはかかる大災害を受けると、その瞬間に復興する方法が即座に頭にひらめくのですといったところ、先方はそれでは貴方のような人が他にまだ居るか、

「答」私のような人が九十九パーセント居ります、皆私のような人です、先方は驚いて、然し貴方のような人は居らんだらう、「答」いや居ります私のような人が九十九パーセント居るんです、アメリカ人と現在まで話をして居る人はその一パーセントにも充たない、わづかの人に聞いても判りませんよと言つたら、非常に驚いたような様子で、しばらく先方では顔を寄せ合つて何か話をして居った、私はその話がわからんから二世の通訳に今アメリカの人はどういふことを話して居るか聞いたら、日本人は素晴らしい優秀民族だと言ふことを話して居るのだと、通訳の人が私に話した。そこで先方が言うのには、貴方の今日の話はまことによかつた、日本という国と日本人の優秀であることをはじめて知つた、甚だ愉快であるということを言つた。本日はこれで止めて何れまた日を更めて来て頂くことにするということでその日の会見は終つた。

また二週間程して呼出が来たから行きましました。ところが先方は今度はまるつきり態度が變つていた。私に椅子を進めるのに気を使って居るように感じた、それからだんだん話をして行く内に、あなたの持つて来た図面と参考書類だけではなかなか東洋の人には呑み込めないと思うから、一つ日本全国土の立体模型図を作り、それによつて検討しようではないか

ということになりました。その金はどうしようということになったとき私は申し出た、それは私がどれだけかかってでも自費で造りますと、言ったら先方は非常に驚き感激したような様子でありました。そこでアメリカ人は必要なら図面とか石膏とかというものはGHQの方で供給してやるからと、非常に好意的の申出でをした。その日は一応会見を終わりました。それから一週間置き位に数時間宛、天然資源局へ出頭して種々と打合せをいたしました。その間にも先方は度々、これはほんとうにあなた一人の発案であるのか、外に黒幕の如きものはないかと、私の様子をさぐりも致しました。その為かミスター・リチャードは沼津の私の宅へ来て泊ったり、私のアトリエで図面や参考書類を調べたり、或る時は神奈川県葉山にあるミスター・リチャードの宅へ私達夫婦を招んだりして、先方も随分慎重に私の身辺を細々と調査したようでありました。それで私は将来のことを慮ってGHQから必要な図面や石膏は供給するという先方の申出でも辞退して、私費で約一年半程かかって漸く昭和二十四年の八月に、日本全国土の二十万分の一の石膏製の立体模型図が完成したので、GHQの希望によって東京丸の内、東宝劇場であったものが、その当時はアニーパイルと名づけられて居りましたところへ私の資料全部を、トラック二台

に積み込み沼津から送って陳列して、マツカーサー元帥夫妻をはじめ進駐軍の将校が多数参観して、大いに驚嘆したとのことであります。

その時は日本人は参観を許さんということでありましたから、私はどうか日本の総理大臣と増田官房長官にだけは、これを見せたいからと特に懇願した、それではミスター田中の友人として参観を許すということでありました。その後、私は大金と命をかけて造ったこれだけの資料を、日本の多数の方々に見せたいからということを数度に亘って交渉した結果、それではアニーパイルには多数の日本人は入れられないからというので、東京朝日新聞社が斡旋して東京日本橋の三越の五階大ホールを借り切って、私の資料をまたトラック二台に積み込んで移設した。昭和二十四年の十月二十日にはじめて日本人に公開することになった、GHQの方で日本再建のかかる偉大なプランを創案した日本人が、日本に居るのでありますから何とぞ御覧になって頂き本人から直接プランの内容をお聞き取り下さいませと

天皇
皇后

両陛下にGHQの方からお願ひして御来臨を願って、その時アメリカの科学者ミスター・スケンクをはじめ十人程のアメリカ人と日本の建設省、農林省、経済安定本部、運輸省、大蔵省等の権威者、技術者が二十名程立会の上、私が

天皇 両陛下に一時間二十分に亘って細々と御説明を申し上げ、御下問にも奉答して御激励の御言葉を賜わったのであります。

そういった経緯がございます。それで私は全部このプランを北海道の稚内から鹿児島に掛るまで、全部一度に建設をやりたいと思いましたが、その当時の日本では殊に建設省では、とても呑み込んで呉れそうにもないから、先づ東京を起点に中部山岳地帯を縦断して濃尾平野へ出て、近江平野を通り大阪から神戸に達する只今壁に掲げてある、長さが九メートル幅が一米五十の油絵を狩野寿一画伯に依頼して製作したのがあの油絵であります。延長約四百三十キロの分だけを、資源開発中央道プランとして名乗って出たのであります。

この油絵は五万分の一地図に私が道路の勾配、トンネルの長さ、橋の長さ等、最小カーブ半径四百メートルの割合で、山梨県の精進湖ホテルで私と狩野氏と助手二人で前後七ヶ月余を費して書き上げたのであります。

これだけを区切って出しましたのは、増田甲子七氏が建設大臣のときでございました。それまでに吉田総理にお話をしたり、書面で申し上げたからでありましょうか、増田建設大臣が私に是非会いたいからという御伝言がありましたので、建設省へ出頭し

たのであります。その時道路局の技術者の方々を皆よんで、一時間程検討したのであります。ところが建設省では昭和二十六年に東海道添いに高速自動車道を建設するという案を発表したのであります。私の発案にかかる中央道は何回も申し上げる通り東京神戸間を最短距離、最短時間で達するのみでなく、山林資源、地下資源、水力資源、観光資源等を開発するばかりでなく、治水治山の役目もはたし、富士山麓をはじめ、長野県、飯田地方、岐阜県の東濃地方、近江平野方面に住宅地、工場用地を造成し、現在の過大都市の人口を分布せしめて、更に観光地帯をも新らしく造成するという、従来の過密都市を解消して現在の農山村と都会との地域格差を少なくするのが目的でありまして、従来の都市計画とは全然百八十度の大転換をした国土改造であるのであります。

私個人では到底政府に太刀打ちは出来ませんので、泣きの涙で自分の息子を大学へもやらないで、自動車の運転をやらせて現地を踏査した訳であります。

では図面と油絵と全国二十万分の一の立体模型で説明いたします。この模型は日本全国土の二十万分の一でありますから、長さが三十六米突、幅六米突であります。ここが東京であります、ここが横浜でここが八王子であります、ここが与瀬の相模湖ダム

であります。ここが中央線の大月であります、ここが富士吉田であります、ここが河口湖、これが西湖、これが精進湖、これが本栖湖、ここを通るのであります。今、衛星都市衛星都市と言いますが、この道が出来ますれば、この富士山麓は東京の郊外になります、今の三鷹の辺と同じです、この道は東京から富士吉田まで四十五分です、精進湖、本栖湖まで東京から自動車で五十五分です。西湖と精進湖と本栖湖の自然湧出の湖面が下らんだけの水で二百六十四万人の人が住めるだけの水があります、一立方メートルの水で四名と計算してのことです。

この富士山の頂上を山梨県のもので、静岡県のものだなどと、小さいことを言わんで、山梨県と静岡県を合併して、この山中湖の水を御殿場へ持って来て使うことにしましたら、飲料水その他の用水にして使うとしたら、御殿場の周辺に三百五十万人の人が東京の郊外として住めることになる。

こんな景色のよい気候のよい空気のよい水のよい所に住んで、毎日大型バスで東京のオフィスへ通うことが出来るのであります。こんな不毛の土地を利用せず捨ててあるのです。

この川は富士川です、ここは身延町の下山附近です。ここに橋を架けてこの川が富士川の支流早川です。この支流の雨畑川に沿って行くのです、この附

近は金を今でも掘って居ります、これは武田信玄公が昔から掘った跡です、この辺はトンネルを掘ればトンネルから出る土砂（ズリ）は皆金鉱石です、昔から甲州系の金山として掘って居たのは皆御存知の通りであります。雨畑川のここから七キロのトンネルを抜きますと大井川の畑薙のダムサイトへ出ます。畑薙ではダムを造りダムの堰堤を通ります。

本日のお集りの方で御存知の方が居られると思いますが、この赤石嶽には約一億石の木材があります、立木一石当り五円で買っても算盤に合わないものが一億石も死蔵して居るのであります。畑薙から八キロのトンネルを抜きますと天竜川の支流遠山川の易老渡に出ます。この附近には木材が約二千万石位あります。ここは水窪です。この附近には昔掘った銅山があります、この附近の銅山は鉱石を掘っても人の背なか馬の背中で運ぶのですから算盤に合わないのです。然しこのようなよい道路が出来れば東京へも大阪へも、トラックに鉱石を積んで一日に二、三回も運べるようになります、そんな訳で今の貧鉱は一躍良鉱になるのであります。これは私が申し上げるまでもなく皆様御存知の通りであります。ここが木沢村ですここから五キロのトンネルを抜きますと天竜峽へ出ます、天竜峽にダムを作ったその堰堤を通ります、どうしてこんな所にあまり落差のない所にダム

を作ったかと申しますと、私は日本のダムの作りかたを一つ考え直してもらわんと困ると思います。なぜならば日本の河川は全部が急流であります。

ダムを川の下流から下流からと作って行きます、下から作ると埋るからまたその上流に作る、また埋る、またその上流に作る日本のような流域の短かい川では、一つの河川で適当な良いダムサイトは三ヶ所か四ヶ所しかありません。これが次から次と埋ってしまつたら貯水の効用は失つてしまう。

それよりも中央道のような道を上流に作つてそのダムの堰堤を通ることにすれば、このダムにたまる砂利をここで取れば、その下流のダムの寿命が百倍も延びることになるのです。先づ一番上流のダムで砂利を取るより外に方法はない、若しこういった道が出来ればこの沿線に工場も出来れば、ホテルも出来る又学校も出来る、道はダムにたまる砂利で直すのです。また中央道から肋骨のよい道路をつけねばなりません、これからは砂利はいかほどあつても足らないでしょう。御承知のようにバラスは立派な日本の大資源です。天竜峡の下流に秦阜ダムがあります、秦阜ダムは既に土砂で埋つて湖底が見える程であります。その下流に一昨年出来たのが平岡ダムです、ここが信州の飯田市です、ここで二キロのトンネルを抜きますと、山本村です、これが恵那山で

ございます。恵那山を九キロのトンネルで抜きますと、夜明け前で有名な、島崎藤村さんの生れられました馬籠の村へ出ます、ここが岐阜県の中津川市です、ここが大井市です、これからずっと中央線の右側を通つてここが多治見でございます、ここが小牧の飛行場でございます、ここが尾張一ノ宮でございます、ここが木曾川でございます。この木曾川へ橋を架けて岐阜県の笠松の南へ渡ります、ここが大垣でございます、これが伊吹山であります、ここが米原であります、ここが彦根であります、ここが八日市市であります、ここが膳所であります。ここから四キロのトンネルを抜きますと、ここが京都府下の醍醐の小野へ出ます、ここが京都でございます、ここが山崎です、ここが高槻市です、ここが吹田市です、この辺が尼ヶ崎市でこの辺が西の宮市です、ここが神戸市でございます、ここで考えて頂きたいことは琵琶湖だけで、野口研究所の調査によれば四十万キロの水力電気が起きるということです。私もこれを相当くわしく調査しましたが、三十七万キロは完全に出ることが判つて居ります、尤も私は水車の効率を七〇パーセントと見たのです。この天竜川の平岡ダムは既に出来て居りますから今度は大井川の井川ダムです。同じ大井川の畑薙の第一と第二と出来きますから、又その上流に赤石渡しにもう一ヶ所ダムが出

来ます、今後出来る天竜川の佐久間ダムも共に合計では一百万キロ出来る見込みであります。日本の現在稼動しておるものの大略三割はまだこの附近だけで出来るのであります。若し琵琶湖を渇水期に三ヶ月間に琵琶湖の水面を三米突下げるのですが、これは丁度一昼夜に日本の矩尺で一十程下げることにになります、その下ったところを標準にして干拓いたしましたら、琵琶湖だけで簡単に一万町歩の二毛作の出来る田畑が出来ます、この附近は一反歩で米が十俵収穫出来る所ですから二毛作として麦も作る事が出来ます、この席に滋賀県のお方もおいでになることと存じますが、百万俵の米が取れて電気が四十万キロ起せるのであります、そういった宝庫がここに手をつけないで眠っているのであります。この琵琶湖については観光のことなども盛んに言われて居りますけれども、観光のことも大切でありますけれども先づ生存の方が何より大切であります。こういった政策も政治力さえあれば簡単に出来るのであります。

この高速道路で東京から神戸まで四時間半位で到達出来るようになりましたら、御承知のようにこの沿線で山林資源、地下資源、水力資源、然もこの大井川上流の赤石嶽、聖嶽、お花畑一帯の観光資源は相当なものです。大井川の畑薙ダムまで東京から自

動車で一時間半の道程です、この畑薙ダムから赤石渡しの間は山紫水明のところでありますから、この附近には立派な観光ホテルが五、六ヶ所位出来るでしょう。

東京を午後の五時頃に出発して赤石嶽に行つて涼みながら夕食を喰べに行くことも出来るのであります、そしてダムに放流してある鮎、川鱒、山魚等を十匹も釣つて、よく涼んだ上に食事をしてその魚を奥さんの土産に持つて帰つたら、奥様がどんなに喜ばれるか目に見えるようじゃありませんか、

東京から畑薙まで一時間半で走るような道路は、ペンシルバニヤのアフトバンでも独逸のヒットラーの作ったアフトバンでも世界中に多くあるのです、決して夢ではありません。そういったことも出来るのであります。この附近に滝もありまして、華嚴の滝ほど水量はありませんが、高さに於いても決して劣らないような滝も三つ四つあるのであります。殊に聖嶽のお花畑は有名であります。現在は一週間分の食糧を背負つて大汗かいて南アルプス登山といつて、往復一週間もかかつて、命がけて登山しているところへわづか一時間半で行くことが出来るのでありますから、思っただけで愉快ではありませんか、今申し述べましたような大きな観光資源があるのであります。

皆様御承知の通りでアメリカからもヨーロッパからも、沢山の観光客が来ましても日本で見ると言っても日光と京都、奈良位のものです。あちらから来る観光客は東京や大阪や名古屋のような所は誰も見たくはないのですから、日本の風光明媚な山や川や、湖、又は日本の田舎の風物や風習、または日本の田舎の純朴な人々の考え方などを聞くことをたのしみに行っていることは、今日まで私が会った数々の欧米人が異句同音に、話していることによってもわかるのであります。それでこういった立派な道が出来て肋骨道路が出来れば、北アルプスの方へ行くのも至極手軽に出来る、この東京神戸間だけならば、ダム及び発電設備を別で約一千八百億円で完成出来る見込みであります。仮に一千八百億円で一年間では出来ませんから、五ヶ年間で完成さすとしても年に四百億円たらずで出来ますから、現在失業救済に支払っている金額でありますから、何もアメリカから借金する必要などありません、御承知のようにこういった仕事さえ初めすれば、行政整理なども容易に出来ます。現在のニコヨンのような二百円や三百円やっても食えないから赤旗ふったりなんかする、仕事さえ作って皆んな完全雇傭さえしたら、赤旗ふったりしてあばれる者はないであります。そうですから、私は須らく仕事を作って働かすこと

が政治家としての第一の務めでなければならんと思えます。

国の富というものは山に木があるだけでは富ではありません。それを伐採しまた後に植え付け管理保存することが富になります。田畑があっても富ではありません、その田畑を起し耕し植付けて収穫することによって国の富であります。海があっても富ではありません、そこにある魚や海産物を取って人類の用に供してこそ、それが国の富になるのでありますから、須らく人を働かすことが国の富であります。一人も失業者や喰べることの出来ない人のないようにするのが大政治家の務めであると思えます。若しこの道路建設事業をはじめましたら失業者はなくなります。従って社会不安はたちどころに解消することになると思います。アメリカに金など借りに行くような必要はどこにありますか、現在の予算を無駄に使わないように重点的に使うことにすればよいのであります。このやり方は治水治山も出来るのであります。この油絵や図面や模型や設計書のように出来ましたら、毎年時をきめて襲い来る台風は大福神であります。台風の時降るあの大雨を多目的ダムに貯水して置いて、三百六十五日に分けて出せば電力も豊富に出来ますし、飲料水は豊富になります。灌漑用水も豊富になり一般衛生に必要な水を充分に供

給することが出来るのであります。だから台風は大福神であります、この大福神を現在の日本では、一年間に一千億円の災害による大貧乏の神に受け取っているのであります。天は人類に不用のものは齎らしません。例えばあの台風があるから樹木をゆすぶって根を固くし強く繁茂させます。その上害虫を吹き飛ばして呉れます。だから神は人類に不必要なものとは与えません。必ずこれを利用して人類の平安な生活に役立たせる方法はあるのです。

それを利用するか、利用せざるかはその人、その人の英智によるものです。台風のためにひっくりかへったり、吹き飛ばされたりするような家を建てるから、災害に逢うのであります。このプランを日本の国策として、東京神戸間を先づ第一期として、この凶面の通りに建設すると、あまりに日本の国がよくなるから、私のプラン全体の如く北海道の稚内から鹿児島県の揖宿まで全国的にやることになると思いません。やらなければなりません。それともう一つは今日の日本の国民が敗戦以来、腰を抜かして意気消沈して、国は狭く人口は多く資源の少ない、就中食糧のたりない国にはいたたまらず、少し気の早い人はアメリカへでも逃げて行こうか、ソ連へでも逃げようかと、そういったことで日本の国民の心が動揺して落付かない、若しこのようなプランが実現してこ

の日本の国を造り直せば、斯くの如くよい国になるとわかった時、国民精神は立ちどころに作興することになる、これをどうかして今日お集りの日本工業クラブの有力な皆様の御鞭撻によって、軌道に乗せたいと思ってお頼み申し上げた訳であります。(拍手)幸にして吉田総理大臣は私のこのプランをちやんと心に握っていらっしゃる。私は吉田総理にはアメリカのダレスさんが日本へおいでになった時、日本工業クラブで十五分ばかりお話を申し上げた、ちやんと覚えていらっしゃるが残念なことには、吉田総理は残念ながら専門家でないから途中にいるわからずやが、田中の言うような飛躍した話は駄目だという者がいるものですから、そんな人に限って人間の多数住んで居る所へ道をつけなければならぬといふにきまっている、人間のいる所ばかり道をつける。それが為こんどの戦争で人間の沢山集っている大中小の都市は、焼爆を受けて焼野原になってしまったではありませんか。今後の新しい国造りは人間の現在住んでいないような所へ道をつけて、人間がそこに沢山住めるようにしてやるのが本当であります。何も私のいうことは飛躍してはおりません。私の申しますことは、例えば一階建ての家をビルディングにするようなことなのです。そして我国を立体的に住めるようにするのが私のプランの本旨なのであり

ます。何も飛躍もしておりませんし至極あたり前のことを言っているだけであります。これこそ誠の国を興す新らしい国造りの本筋だと確信しているのではありません。そういう訳で本日、日本工業クラブの木曜講演会として出席させて頂き皆様に親しくお話をさせて頂くことの出来ることは、日本工業クラブの会員に入れて頂いたことを実に有難いことと思っております。

このことは一とおりの話申上げただけで飛躍したように聞えますから、私が長々とおしやべりをしているよりも権威ある皆様に御質問をして頂いて、それにお答えした方がわかりがよいと思えますから、これから御質問を承りたいと思います。これで私のお話は一先づ終りたいと思います。(拍手)

◆第一質問者

今、田中先生はこの大井川奥に一億石の木材が死蔵されているということをお聞かせ願いましたが、遠山川から水窪にかけて二千万石の木材が死蔵されているということでしたが、それは針葉樹が多いか、又は闊葉樹が多いか、それをお聞かせ下さい。また富士山麓から岐阜県の大垣まで行く間の山々に五億二千万石程の森林があると言われましたが、そのような大量の材木が主にどの辺にあるか、それをおたづねいたします。

◆回答者 田中清一

沿線附近の山川を私が見て歩いて調べたところによりますと闊葉樹は二三パーセント程です。その外は針葉樹であります。その分布地域は先づ富士山の周辺を見ました。それからこの道路へトラックで三時間で出られるところを範囲といたしました。長野県の梓川流域の上高地から梓川一帯と、山梨県の富士川の支流早川奥の野呂川をはじめ、雨畑川、大井川、奥泉から赤石山系全部に渉る地域、それから木曾の御嶽山を中心にした地域、それから木曾川の支流の飛驒川の上流まで、それから長良川の上流まで、長良川の支流の板取川流域、内ヶ谷の流域吉田川の流域、同じく岐阜県の揖斐川の流域全部、これ等を全部合せました木材の蓄積石数であります。

◆第二質問者

先生、道の勾配はどれ位でありますか。

◆回答者 田中清一

実は私は日本の将来を深く慮ばかりまして、日本には石油の資源がほとんどありませんので、若し石油の輸入が止絶するような事態が起ることをも考えに入れまして、道の勾配は最急勾配を四パーセントと定めて測量し、設計して参りましたが残念なことには富士川の支流の雨畑川から大井川に出るまでの間に、六パーセントのところは四キロばかり出来る

ことになりました。これもこの道の長さを四キロばかり延すことに依って、それだけ道は遠くなりませけれども、最急勾配五パーセントで納めることが出来ますから大した困難な勾配ではありません。百米突間に五米突の高低があるので、ほとんど自動車運転してはわからぬのであります。

◆第三質問者

これ程我々が聞いて見ると日本の為になる道路をつけることに對して、どうして建設省がそのように反對する。その理由は何んですか。

◆回答者 田中清一

それは建設省は建設するお役所でありますから、道路を建設することはこちらにまかせておけ、君のような民間の鍛冶屋がそんな余分なことをいう必要がないじゃないかと言う、それ以外には根拠がございません。このプランは日本の国がよくなって道も近くなる。山林資源が開発される。地下資源が開発される、水力電気が開発される。治水治山まで出来る、今まで人間の住めなかつた山岳高原地帯に多くの人住めるようになって治水治山まで出来るのでありますから、本当に日本の国を思い民族の将来を考ふる者ならば、誰でも賛成して呉れると思ひますが、役所や学者の面子ということだけだと思ひます。

◆第四質問者

先生のお話を承りますとこんなよいことはなし、日本の将来の為やらねばならぬと思ひますが、これに對する資材の担当はよいですか、例えば鉄材、セメントの如き、それから労働力等はどのような方法で調達しますか、橋は幾ヶ所位出来まか。

◆回答者 田中清一

鉄材は五十噸のトレラーを通すようにいたしますから、非常に丈夫な橋を必要としますから、充分にすれば全部で四十一萬噸使う見込みでございます。橋の数は小さい小谷まで橋を架けるといたしますと、それ等と暗渠のものまで計算に入れば五百十一ヶ所ばかりありますが、その内最も長いものが東京を起点に、多摩川、その次が富士川、その次は木曾川、長良川、揖斐川、滋賀県の犬上川、野州川、京都の加茂川、保津川、大阪では神崎川、兵庫県の武庫川、大なるものは十一ヶ所あります。それからセメントは大体百萬噸であります。労働力は大体八千三百万人です。丁度日本の国民全体で一人が一日宛働いて呉れたら出来る実に不思議な計算が出たのであります。仮に多少の差が出来ても一億人になつても一人一日の労賃が五百円としましたら、但し、尤も高い人もあるけれどもまた安い人もあるから、平均の賃金です。仮に一億人でも五十億圓、その額は割に少額なものです。

◆第五質問者

実に立派な計画だということがわかりました、一体これは何年間で出来るものでありますか。

◆回答者 田中清一

五年位でやれると思います。何しろトンネルの工事がありますから、只今天竜川の佐久間ダムを建設中でありますが、あの導水トンネルが十米にセメントを巻き立てますから、掘り取るのは十一米幅位は掘り取るのでしょうか、この間、佐久間の仕事をしている方が沼津の私の会社へ訪ねて来られて、貴方は大きな仕事を考えておられるようですが、あなたのお話を承りたいと思います。今のトンネル工事はジャンボウという機械を使うから、十米突位の幅で高さが七米突位のトンネルならば一日に片方から十米突位づつ掘り進むから両口から掘り進むと、一日に合計二十米突位宛掘り進めるといってお話でありました。この中央道の東京大阪間で、一番長いトンネルは大井川から遠山川へ抜ける赤石山系の、易老渡トンネルが一番長くて八キロありますから、三年位あれば充分に掘り抜いて完全に巻き立てをして、照明装置を完備して排風、送風の換気装置が一切出来上るものと思います。

何かその外に御質問はございませんか。

◆司会者 中村元督氏

何か皆様もつと御質問はありませんか、御質問があれば田中さんは喜んでお答えになりますからどうぞ。

◆回答者 田中清一

今日は御専門の方も多勢いられるし、その道の御専門の権威者が多数おいでになるということがわかっておりますので、初めから緊張して大汗かいてお答えしているような訳ですから。(笑い)

◆司会者 中村元督氏

本日は木曜講演会といたしましたは、かくの如く多数、御来会願いましたことは、世話人として厚く御礼申し上げます。

御質問がございませんようでしたら一応この会はこれとじることになります。(拍手)

「NHKテレビ全国放送」 昭和三十二年十月二十三日

国土計画に関する録音

お 話 株式会社富士製作所取締役会長
国土建設推進連盟会長 田 中 清 一
ききて NHKテレビアナウンサー 鈴 木 文 夫

音楽あり

◆鈴木

田中さんが道路建設の田中プランを、はじめて発表されたのはいつごろですか。

◆田中

これは太平洋戦争があまりおもしろくないというような気持ちが出した時、昭和十八年の五月の何日でしたか元の帝室会計審査局長官であり、侍従次長で在られた木下道雄さんが、私の経営している沼津工場へお出でになって、どうも日本の将来のことについて、まことに憂慮に堪えんというようなお話があった時に、大体このようなことをお話しをしたんですが、具体的ものではなかったのですけれど。

◆鈴木

然しこの道路計画、

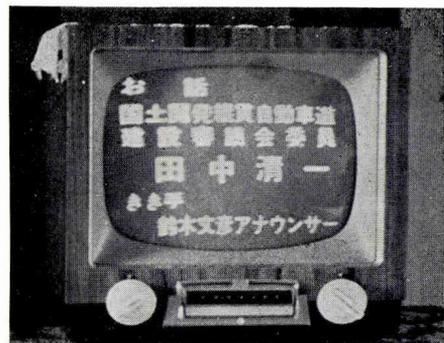
その案が具体化して来たのはいつ頃ですか。

◆田中

具体的な構想になって来たのは、戦争に負けましてね、日本の大中の都市は焼野原になっておりましてね、食糧はないしね、住宅はないしね、非常に困っている時代にね、東久邇様からお呼び出しがあったので、昭和二十年八月二十八日に総理大臣官邸に伺いました。その時、お話を申し上げたのが公にしたはじめです。

◆鈴木

そうしますと終戦後第一代目の内閣でしたね。そ



の計画を持って行った時の反響はいかがでした。

◆田中

東久邇様は非常にお喜びになりましたね、大変結構なプランであると思うが、君の今日のお話だけでは閣議にも何にも諮れないから、もう少し資料を充分に整えて来て呉れと仰せられました。それで私は沼津へ帰って三週間程かかって、趣意書や、図面や、計算書等を、柳行李に一パイ程持ってお伺いしたところが、その日に東久邇宮内閣は更迭されることになりました。

◆鈴木

ああそうですか、特別に田中さんが、こう言った道路に関心をお持ちになった切っかけと申しますか、特別のものがあつたでしょうか。

◆田中

それは戦争に負けましてね、領土は非常に狭くなるしね、人口は益々ふえるし、それから資源はないしね、就中、食糧はたりないしね、このままではこの民族が生存出来ない、ということからこの問題解決のためには、どうしても日本の国の八〇パーセントの山と高原を生かして立体的に使うようにする、それより外に方法はないと思ひまして、そうするにはどうしても北海道の稚内から九州の鹿児島まで、この高原地帯を貫いて通るような高速道路を建設し

てね、背骨道路ですね、これに太平洋岸と日本海岸の重要港湾、重要都市、重要穀倉地帯からは、肋骨型に現在ある道路を拡幅整備、完全舗装して背骨道路と連絡して、運輸交通の便を計り、そうして国民の生活領域を広めて、それに加えるに山林資源とか地下資源とか、水力資源とか観光資源を開発して、この日本の国で一億人の人口が楽に生活出来るようにしたいと思つたのがこのプランの元です。

ほんとうはね、道路は手段であつて、まあ新しい国造りの考え方なんですよ。

◆鈴木

それでは一つ地図でも御覧になりながら、北は北海道から南の方へずっと、具体的にお伺いすることに致しましょう。

◆田中

今日は時間もありませんから北海道のことは後にしまして、青森から出発して弘前へ、それから十和田湖の下を通りまして、八幡平の下の兄畑を通って、平館を通って、盛岡を通って、仙台へ出て、福島を通過して、那須野を通過して、宇都宮を通り、東京へ入り、東京から今度は富士五湖を通りましてね、赤石山脈を抜けて長野県の飯田へ出て、岐阜県の中津川へ出て、愛知県の小牧を通り琵琶湖の南を通り京都、大阪を経て兵庫県西条と生野の銀山の附近を通過して、

岡山県の津山、勝山を通過して広島県の三次、それから山口県の美称を通り関門海峡を渡って、福岡へ出て久留米、熊本を通過して鹿児島へ行くような道を作りたいのです。

◆鈴木

ああそうですか、運輸省の中央線に近いもんですね、何と言っても一番の山は東京―神戸間と言うことになるでしょうね。

◆田中

まあ一番先に、最も経済的にも全ての点に有利な、東京―神戸間をやるのですよ、東京―神戸間のうちでもこの法案が第二十六国会で通りましたからね。名古屋―神戸間を第一着に造ることになり既に着手しております。名古屋神戸間と言いましても実は小牧、神戸間ですがね、小牧―東京間は今、折角調査測量中であります。

◆鈴木

最近吉田総理大臣も長期安定政権の前提として、一つ自分の代には日本の国土縦貫道路を作ろうと言うようなことをおっしゃいました。田中さんとしても大いに吾が意を得たりと言うところでございましたよね。

◆田中

私は非常に嬉しかったですよ。

ああいった有力の大政治家がそういうところに政治の中心を置こうとおっしゃることは非常に大きなことだと思います。

◆鈴木

はあ、先もお話がありました。田中さんの御計画によりますと、あくまでも国土の開発が重点でありまして、道路は手段だと言うことでありましたが、やっぱり道路のことが先決問題でありましょうか。

◆田中

道路の問題と言いましても今迄のようなやり方では、いつまでたっても建設して行くきわから、きわから壊れて行きましよう。もう今度は抜本的に新しいところに道を作らんといかんと思いましてね、勿論、今ある道を東海道に致しましても、なるだけ幅したり、S字型になっているところを真っすぐにしたり、カーブの小さいのを大きくしたり、それから鉄道などは、立体交差にしたり、それから急な勾配のところをもう少し直したり、これをやることは焦眉の急務なんですけれど、その程度のことでは日本の現在の自動車交通の激増には追いつかんですよ、実際は道の悪いことで、全ての製品のコストが高くなりますしね、ネックは道路ですよ。

◆鈴木

まあ、これで田中プランが実現された暁に東京の

姿はどういうことになるんだろうか、東京の未来の姿をえがいて見て頂きましょうか。

◆田中

御承知のように東京のような過大都市では、国民が全部困ると思えますがね、私はこの中央道が出来ますと、富士山麓の精進湖、本栖湖までは自動車で一時間位で行けるのですからね、ああいっただところに不毛の土地が沢山遊んで居りますからね、ああいっただところに上級学校を持って行けばよいしね、外国の大公使館、それから図書館も行けばよいし、博物館も行けばよいし、それから出来ることならば政府の諸官庁も行けば、空気も清澄で景色もよいし綺麗な水もあるし、一時間で行けるのですからね、ほんとうは皇居も今の東京ではね、祝田橋の通りとそれから日比谷の通りだけでも一日に八万台もの自動車を通る、その排気から出る一酸化炭素は、風に乗って皇居の方へも行きます。それからねビルディングがどんどん出来ればあのビルディングには暖房用のエントツがあるのですから、あれから出る瓦斯やほこりは、皆皇居の附近にばら撒かれるのですから、皇居のお堀りに居る白鳥の背中が真黒くなったり、松の木がだんだん枯れていったり、桜もだんだん咲かないようになるのは皆この煤煙と汚れた空気のためですよ、丸の内へ郊外から通っている方々は朝八

時か九時に出て来て午後四時か五時には皆郊外に帰って行くのだからよいけれど、皇室におかせられては年中あそこにお住い遊ばされるのであるから、私はよく御辛棒遊ばすと思つてね、毎日心配しているんですよ、出来れば皇居もこの富士山麓へ御造営をすれば、ここへ一時間で行けるような道が出来ればそれ程不便ではないと思います。まあ現在の八王子附近と同じことです。

◆鈴木

まあ、大変結構なお話だと思いますけれども、田中プランは具体化すれば資金の面でも大変だろうし、技術の面でも大変むつかしいんじゃないかならうかと思えますけれど、いかがですか。

◆田中

あのね今は昔と違って、土木技術が進みましたもんですからね、この中央道はむづかしいといったところで富士川の身延町の附近から天竜川筋の天竜峡へ出るまでですからね、その距離はね、丁度鉄道の東海道線の小田原から三島へ出る程の距離ですからね、トンネルの長さも大体あれ程の距離ですから、それで今日では丹那トンネル程の長さのトンネルでも二年半か三年かかれば出来てしまいますから、それだからトンネルはちっとも心配はないのです。トンネルは今がジャンボウという機械で掘りますから、

今は道を真すぐに作ることは少しも困難はないので
す。

トンネルは一旦掘りさえすれば、掘ったあとは、
ほとんど修繕らしいものはいらないのです。あの丹
那トンネルはあのような山の条件の悪むところ
十六年もかかって掘ったのですけれども、伊豆の大
地震にもちっとも壊れなかったでしょう、ほとんど
いたまんですね。

◆鈴木

何か建設資金の方では田中さんに名案があるよう
に承りましたが。

◆田中

その方は外資の導入も結構ですしね、私の心易い
方で元大蔵大臣をやっていたらしゃった立派な経済
通の方のおっしゃるには、日本では財政投融资でも
一年間に、三百五十億や四百億円の金は出来るとい
うことをおっしゃって居るけれども、私はまたそれ
も結構ですけれども、国民が一人でわずか一日に一
円づつ新しい国造りの目的貯金をすればね、一日に
八千八百万円でしよう、十日に八億八千万円でし
ょう、一ケ年には三百二十一億二千万円になるでし
ょう、これが第一期計画の東京から神戸までとして、
現在の物価でやれば一千七億円程度で出来上ると
思いますから、五年位で出来上るのですから。

◆鈴木

ああそうですか、まあ田中さんのお話を聞いてい
ると、なにか日本の悪道路も近い将来に一掃され
るじゃないかと、大変明るい希望を持つ訳ですが、こ
れでこの計画が出来上るとして、日本の悪道路がな
くなるにはどの位かかるでしょうか。

◆田中

お金ですか。

◆鈴木

お金と時間ですね。

◆田中

そうですね、やれば十ケ年ですね、お金はね、建
設費はね、一兆億円ですよ、一兆億円位かければ、
大した新しい文化国家になりますよ。

国際観光収入なんかも一ケ年に三億ドル、日本の
金にして一千億円内外の外貨が獲得出来るようにな
りますよ。

◆鈴木

はあ、そうですか。まあ今朝は大変早くから御出
で頂きまして種々有難うございました。

音楽

全国区参議院議員立候補の際

NHKより全国放送

昭和三十四年五月

○アナウンサー

全国区参議院議員候補者

自由民主党 田中清一さん

自由民主党 田中清一さんの放送です。

私は今回、自由民主党公認として、全国区参議院議員に立候補いたしました田中清一であります。また私は国土開発縦貫自動車道の発案者であり、設計者である田中清一でございます。

不肖私は、昭和十八年以来、日本の将来を深く憂いまして、この我等の祖国日本を、平和な文化の高い国家に樹て直す、綜合国土計画を研究して参りました。

そして、その目標は、第一に日本の国土を立体的に使用して、食糧を自給自足する。第二にあらゆる天然資源の開発。第三に高速自動車道の建設による輸送力の強化であります。而してこの目的達成の為に、北は北海道の稚内から、南は九州の鹿児島に至る、高原地帯

を貫いて通る背骨道路を建設して、その肋骨として、太平洋岸と日本海岸の、重要都市、重要港湾、重要穀倉地帯等に連絡する、現在無数にある、一級国道、二級国道及び都道府県道を、拡幅整備して、山奥に眠れる山林資源や地下資源、水力資源及び観光資源を開発し、新らしい都市、新らしい農村を建設して、新らしい職場を作つて、失業者をなからしめ、この狭い日本の国土に於いても一億人の人口を、充分にやしない得る画期的な、国土計画を創案したのであります。

この新らしい国造り案は日本国内はもとより、遠くアメリカにまで一大センセイションを巻き起し、朝野共に各方面の関心が高まりまして、遂に昭和三十二年の第二十六国会に於いて、自由民主党、社会党共に万場一致で国会を通過して、法律となつていたのであります。

さてこの建設予算捻出の方法は、日本全国民八千八百万人が、一日にわずか一円ずつの新らしい国造りの「国土建設目的貯金」をすれば、一日に八千八百万円、十日に八億八千万円、百日で八十八億円、一ケ年には三百二十一億二千万円の大金が貯蓄され、この貯金を見返りに建設公債を発行すれば、アメリカから借金をする必要もなく、増税をすることもなく、直ちに建設に着手することが出来るのであります。同時に現在直面せる、多数の失業者を救い、更に日本全国民特に青少年諸君に、新らしい希望と勇気を与え、精神の作興と経済の復興とを、同時に達成することが出来るのでございます。

この田中プランは既に昭和二十四年十月、アメリカの権威ある科学者十数名と、日本の

建設省、農林省、経済安定本部、大蔵省及び運輸省等の技術者数十名日本の大学の学者数名立会のもとに

天皇 両陛下に御説明を申し上げ、親しく御激励のお言葉を賜わって居るのでございます。

この新しい国造り国土計画案は、戦時中からの創案者である田中清一は既に一億数千万円の私費を投じ、自ら実地測量して、その実現をさげほび続けて来たのでありますが、今の政治状況に鑑み、この新しい国造りを実現するには、どうしても創案者であり設計者である、田中清一自身が国会に議席をもたねば、実現が出来ないことがわかりましたので、敢然として立候補したのであります。

全国民の皆様、この田中プランの発案者であり、発明功労者として藍綬褒章を賜わった、田中清一を議政壇上へ送って下さい。

田中清一は国民の皆様の御期待に添うべく、最善の努力を致す覚悟でございます。御静聴を感謝いたします。

御他界された顧問、役員の方名

(顧問)

元、参議院議長	清瀬 一郎殿
元、参議院議員	河井 弥八殿
大阪商工会議所会頭	杉道 助殿
名古屋商工会議所会頭	神野 金之助殿
元、国務大臣	下村 宏殿
元、山梨県知事	天野 久殿
元、商工大臣	中島 久万吉殿
元、鉄道大臣	八田 嘉明殿
日本国土開発(株)社長	高木 陸郎殿
元、同盟通信社社長	古野 伊之助殿

(理事)

(理事)

元、三井鉱山(株)社長	三井 高修殿
元、参議院議員	尾崎 行輝殿
(株)平凡社、社長	下中 弥三郎殿
名古屋木材(株)社長	加藤 周太郎殿
日本工業倶楽部 常任理事	中村 元督殿
綜合国土計画研究所 常任理事	小西 百一殿
碌々産業(株)社長	野田 正一殿

(監事)

財団法人・田中研究所

◎以上各位は昭和三十年十月に、財団法人田中研究所が設立されてから本年までの間に御逝去された方々でありまして、茲に謹んで哀悼の意を捧げます。

(昭和四十三年十一月三日)

財団法人・田中研究所一役員芳名

(顧問)

衆議院議員	元内閣総理大臣	衆議院議員 前、防衛庁長官	日本商工会議所 頭	日本観光連盟 長	共同テレビジョン ニュース(株)会長	日本自然保護 協会理事長	大日本山林会 長
石井光次郎	片山哲	増田甲子七	足立正	平山孝	松方三郎	田村剛	三浦伊八郎

(敬称略・順不同)

理事長	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事
田中清一	木下道雄	安井英二	青木一男	木村公平	小汀利得	秋山真男	高野務	友森二郎	田中清正	山根清春	土橋義広	瀬上清隆	野田精一

(評議員)

静岡県	同	同	同	同	長野県	同	東京都	岐阜県	愛知県	静岡県	大阪府	東京都	岐阜県
片平七太郎	松田江畔	川村太吉	近藤増次郎	平林元重	林宗重	永野常蔵	加藤鏝一	田中均一郎	豊田武松	栗田鉄次郎	野極英一	足立正樹	

(昭和43年11月3日現在)

財団法人 田 中 研 究 所

本 部 静岡県沼津市日の出町 456 番地
榎富士製作所、隣接地

東京支部 東京都千代田区丸ノ内 2 丁目 4 番 1 号
榎富士製作所 東京支店内 (363 号室)

発 行 日 昭和45年 7 月15日

印 刷 所 大日本印刷株式会社
東京都新宿区市ケ谷加賀町 1 丁目12番地

理 事 長 田 中 清 一 発 行 責 任 者 瀬 上 清 隆